

武蔵野市スポーツ振興計画等の実施状況とその評価

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
施策の考え方	平成20年度の状況			平成21年度～26年度の実績	平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)			進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策										
事業名										
1 きっかけづくりの充実【広げる】										
(1) 生涯を通じてスポーツを楽しむ機会の創出										
①観るスポーツ・アスリートにふれる機会の拡充										
1	(施設管理) スポーツ施設の管理運営	各種スポーツ大会の開催時に主催者と調整し、市民の観戦について配慮します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】市民体育大会19種目 市民体育祭19種目 日本フットボールリーグ7試合 その他	市民向けの大会だけではなく、JFL横河武蔵野のホームグラウンドとして、アマチュア最高峰のチームの公式試合を開催。平成25年度には「スポーツ祭東京2013(国体・全国障害者スポーツ大会)」の開催地として、バスケットボール成人男子の決勝戦、および7人制ラグビー成年男子の決勝戦などを行い、多くの市民に観戦の機会を提供した。	◎	「スポーツ祭東京2013(国体・全国障害者スポーツ大会)」の開催を機に、市民に「観るスポーツ」の機会を拡充した。今後東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ日本開催に向け、障害者スポーツを含む各種大会等を武蔵野で開催し、より多くの市民に様々なスポーツを観戦する機会を提供していく。	平成28年度は車いすバスケットボール東京大会、同年度からシッティングバレーボールの全国大会、平成30年度からはポッチャ東京カップの開催に協力した。平成29年度に招致したジャパンパラポッチャ(ポッチャ国際試合)では、選手入場時の旗手を児童がつとめた。令和元年度はラグビーワールドカップ2019日本大会の開催に合わせ、ロシアチームにキャンプ地として施設を提供した他、同大会の日本戦(アイルランド、南アフリカ)のバブルックビューイング運営、クラシックジャパン対クラシックワラビーズの親善試合を実施し多くの市民にトップアスリートによるスポーツの観戦機会を提供した。	◎	市の各部署と連携し、市民に「観るスポーツ」の醍醐味を味わってもらうことができた。身近なスポーツ施設でトップアスリートに会えることや、応援する喜びや一体感、感動の共有は貴重な体験となるため、今後もオリンピック・パラリンピックをはじめ、トップアスリートのスポーツ大会を観戦する場の提供を継続していく。
2	健康づくりの集い(アスリートによる講演会など)	広く市民の健康づくりの意識の向上を図るため。講演会等を開催します。	健康づくり支援センター	平成20年度2回実施	平成22年度より平成26年度まで、年1回の著名人による講演会を実施。	★	参加者が主体的に健康づくりに取り組むための情報提供を行い、効果的に健康づくり支援を受ける機会とし、参加者アンケート結果等により一定の成果を得た。平成27年度より、著名人に要する費用を他事業に有効に使用するため事業を廃止した。	左記の通り、平成26年度で終了。	★	—
3	トップアスリートやスポーツ選手との交流	トップアスリートや市にゆかりのあるスポーツ選手などとふれあう機会の充実を図ります。	生涯学習スポーツ課		平成24年度にプロバスケットボールチーム「サンレーヴス」が東京に誕生し、そのホーム会場の一つとしてチームを支援している。市内の小中学生との交流体験などの事業を積極的に展開している。	◎	平成24年度以降定期的に、アマチュアとは違った魅力のあるプロの試合を開催し、市民にスポーツに親しむ機会を増やすことができた。今後もラグビーワールドカップ日本開催や東京オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけに更なる充実をはかる。	誰もがスポーツに参加できる環境づくりを目指して、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けたイベント名を「Sports for All」と称し、多くのスポーツイベントを実施した。パラ競技も含めて、トップアスリートをゲストに招き、一流選手との触れ合いやスポーツ体験を行った。	◎	子どもたちをはじめとする市民が一流の選手やチームに触れる機会、感動体験を提供した。アンケートでは参加者の9割以上が「満足」と答えている。体育協会加盟団体や市にゆかりのある団体・選手とのネットワークや協力関係を築くことができた。引き続き実施していく。
②スポーツのある風景づくり										
1	(施設管理) スポーツ施設の管理運営	生活通路やランニングコースに面している施設でスポーツをする場面を見て、興味をもってもらえるよう工夫します。	武蔵野生涯学習振興事業団	総合体育館・陸上競技場・温水プール・庭球場・軟式野球場・ストリートスポーツ広場・中央公園スポーツ広場等の整備。	平成21年度にフットサル、フライングディスク、グランドゴルフなど、様々なスポーツができる緑町スポーツ広場を新たに整備した。	◎	今後も市民に利用しやすい施設をめざし、計画的な改修等整備をすすめていく。	引き続き、スポーツに興味をもってもらえるようスポーツ施設の管理運営を行った。	◎	適切な施設の管理運営を実施できた。令和6年度に大改修が予定されている体育施設に、安全安心かつ、より興味をもてるスポーツ空間となるよう市の計画にアイデアを提供していく。
2	さあ始めようウォーキング	正しい歩き方や靴の履き方のレクチャーと4km強のウォーキングを行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。(7、8月のぞく毎月実施)	平成21年度より平成26年度まで、年10回程度継続実施	○	参加者数及びアンケート結果等から、これまではウォーキングのきっかけづくりとして一定の成果を上げたと言える。平成27年度より、ウォーキング人口が増えウォーキングへの意識が高まってきた時代の変化に合わせ、仲間づくりやターゲット・テーマを明確にした企画による実施に変更。60代以上を対象とした初級・中級クラス、20～50代の女性を対象とした強度の高い講座等を、複数回のコースにより実施。	以下の事業名でウォーキング事業を実施。 平成27年度:スタイルアップウォーキング、武蔵野ウォーキング(計18回) / 28年度:スタイルアップウォーキング、ノルディックウォーキング教室、ミドルウォーキング教室(計15回) / 29年度:学んで実践!ウォーキング教室、健康講座付きノルディックウォーキング教室(計28回) / 30年度:前年度と同様(計17回) / 2019年度:前年度と同様(計17回) / 2年度:学んで実践ウォーキング教室、ノルディックウォーキング教室(計12回)	◎	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を出していることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。
3	だんだん活力アップ体操キャラン隊	市内各所(イベント含む)でだんだん活力アップ体操の紹介を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。	平成21年度からは、市内団体等からの依頼により実施。また、高齢者を対象とした各種講座等において実施。	○	市内イベント及び各種講座で広く実施した結果、現在では体操を収録したDVDにより毎朝体操を行っている市内施設も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。	市内団体等からの依頼により継続実施した。また、希望する団体や健康づくりはつらつメンバーに対してDVD配布を行ったり、ころばぬ教室などの体操教室で体操を取り入れ実施した。	○	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を出していることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。
4	親子食育ウォーキング	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名(平成20年度参加者延べ61名)	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続。	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。	事業のノウハウが確立したため、主催事業としての市内コミセンや農園等との協力のもと、健康づくり推進員企画及び出前型のみで継続実施した。	○	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を出していることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。
5	観光推進計画との連携	『武蔵野市観光推進計画』(平成19年8月策定)(※平成29年6月、第二期武蔵野市観光推進計画策定)と連携し、来街者を呼び交わす機会として、様々なスポーツ関係団体等との交流と協力を得ながら、「観光の一翼を担うスポーツ」を育成します。	産業振興課(旧生活経済課)		まち歩きツアーの実施(平成25年度より、月1回程度)。	◎	毎回30名程度の参加者を募集し、ほぼ満員でのツアーを実施している。まち歩きを通じた健康増進と、観光の推進を図るため、今後も継続していく。	毎回ほぼ満員(30名程度)でツアーを実施したが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い複数回中止し、再開後も定員を半数程度に抑えた。	◎	人気事業として定着しており、まち歩きを通じた健康増進と観光推進を図るため、今後も事業を継続する。また、新型コロナウイルスの状況を注視し、マイクロツーリズムに合致した新しいテーマの発掘や、オンラインツアーなどの手法も検討していく。

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
基本施策										
◎家族・親子で楽しめるスポーツの促進										
1	ファミリースポーツフェア	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日(祝・昭和の日) 総合体育館・陸上競技場 自由参加型イベント 400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。	スポーツ推進委員協議会により企画・開催した。ポッチャやブラインドマラソンなどのパラリンピック種目やスラックライン等のニュースポーツも積極的に取り入れた。参加人数:約1,200～約2,200人。平成28年度から武蔵野生涯学習振興事業団主催のジュニアスケートボードイベントを同時開催している。	◎	幼児から高齢者までが気軽にスポーツを楽しむことのできるイベントであり、スポーツの生活化や健康づくり、コミュニケーションの創出に寄与することができた。継続して実施していく。
2	市民スポーツデー	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後(7月、8月、3月除く) 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	継続して、各校年5回、校庭を体育館を開放し自由にスポーツを楽しむ場を提供している。市民スポーツデー運営委員による特別イベントでは、ポッチャ、グラウンド・ゴルフ、サッカーなどを実施している。令和2年3月には、新型コロナウイルス感染症による公共施設の休館やイベントの中止・延期が相次いだため、校庭のみの臨時市民スポーツデーを開催した。	◎	子どもから高齢者まで、身近でかつ広い学校施設でのびのびとスポーツを楽しむことができるため、継続して実施していく。
3	家族ふれあい長期自然体験	都会と違いゆったりした時間の流れる豊かな自然の中で、親子・家族で様々な体験を共有します。事業期間を長めに設定し、家族で海と山の両方を体験します。	児童青少年課	平成15年度より実施 年1回 夏休中 4泊5日 鳥取県・岩手県にて民泊・自然体験等	毎年度継続実施。文化や自然に触れる体験やホストファミリーとの交流を行った。平成24年度までは生涯学習スポーツ課で実施し、平成25年度から遠野市家族ふれあい自然体験事業が生涯学習スポーツ課から児童青少年課へ移管されたため、以後鳥取県家族ふれあい長期自然体験と隔年で実施している。	◎	友好都市の豊かな自然の中で、日常生活では体験できない活動を通して、親子のふれあい、絆を深めることができた。自然体験だけではなく日々の忙しさから離れ、家族のつながりを確認する機会も提供した。今後も体験の機会を提供していく。	毎年度継続実施。文化や自然に触れる体験やホストファミリーとの交流を行った。平成25年度から遠野市家族ふれあい自然体験事業が生涯学習スポーツ課から移管されたため、以後鳥取県家族ふれあい長期自然体験と隔年で実施している。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	◎	友好都市の豊かな自然の中で、日常生活では体験できない活動を通して、親子のふれあい、絆を深めることができた。新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上での事業実施方法を検討し、今後も体験の機会を提供していく。
4	二俣尾武蔵野市民の森事業	二俣尾・武蔵野市民の森「自然体験館」において、市内ではできない自然体験を実施することで、森林を含む自然環境に対する意識の向上や理解を深め、事業参加を通して親子の絆を深めることを企図します。	緑のまち推進課	森の市民講座 21年度 年4回 参加人数 96名 22年度 年4回 参加人数 75名 23年度 年4回 参加人数 69名 24年度 年4回 参加人数 62名 25年度 年5回 参加人数 96名 26年度 年5回 参加人数 66名	森の市民講座	◎	今後も実施していく。	森の市民講座 平成27年度 年5回 参加人数 125名 平成28年度 年5回 参加人数 111名 平成29年度 年4回 参加人数 97名 (※1回は降雪で中止) 平成30年度 年5回 参加人数 96名 令和元年度 年5回 参加人数 126名 令和2年度 新型コロナウイルスの影響で全回中止	◎	平成30年度に、環境省のホームページに環境学習体験活動の優良事例として紹介されるなど、自然体験学習の活動が評価された。今後は、市内他団体との連携も検討し、継続して実施していく。
			児童青少年課	森の森林講座、森林体験教室(土曜学校)等 各所管課にて年複数回実施	毎年度継続実施。森の探検、川遊び、野外調理などのプログラムを行った。9月(平成23年度のみは11月)の土曜・日曜で実施したが、平成24年度及び26年度は1日が雨天中止となった。	◎	多摩地域の身近な自然での体験を通して、家族の絆を深めるとともに、自然環境に対する意識の向上を図ることができた。毎回定員を超える応募がある参加需要の高い事業となっている。今後も自然体験の機会を提供していく。	毎年度継続実施。森の探検、川遊び、野外調理などのプログラムを行った。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	◎	多摩地域の身近な自然での体験を通して、家族の絆を深めるとともに、自然環境に対する意識の向上を図ることができた。毎回定員を超える応募がある参加需要の高い事業となっている。新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上での事業実施方法を検討し、今後も体験の機会を提供していく。
			武蔵野生涯学習振興事業団	土曜学校として実施している「森林体験教室」は多くの子ども達が参加している。平成23年度からは武蔵野生涯学習振興事業団の指定管理事業として実施している。	初級(小学生低学年)、中級(小学生高学年と中学生)のクラスがあるが、高学年以上になると参加者が減るのが課題である。今後は他課の事業とも合わせて検討していく。	◎	土曜学校「森林体験教室」は、小学生対象の初級編と小学4年生～中学生対象の実践編に分けて実施し、子ども達に森林探検や丸太切りなど森ならではの体験を提供した。	◎	様々な森林体験プログラムを提供し森林体験活動を通して、自然の大切さや野外活動の楽しさを伝えることができた。しかし、森の管理の観点から、間伐できる木が減ってきており、今後プログラムの見直しが必要である。	
5	スポーツ教室	未就学児と保護者を対象に、5～10回程度のスポーツ教室を実施します。 親子体操教室、親子水泳教室等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子を対象にしたスポーツ教室 教室数 5教室 応募数 206組 参加数 152組	親子体操や親子水泳以外に、人気のテニス親子教室を実施した。	◎	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。	生後3か月以上1歳未満の乳児と母親を対象にした産後ヨガ教室や、1歳以上3歳未満の幼児と保護者を対象にした親子よちよち体操教室を実施した。また、小学生に人気のインラインスケートを幼児も含め親子体験教室として実施した。	◎	親子体操や親子水泳ではフォローできていなかった層へのアプローチが出来たことで新たな参加者層を取り込むことができた。引き続き、幅広い世代に向けて、スポーツに親しむ機会を提供していく。
6	体験教室、イベント	未就学児から小学生と保護者を対象に、各種スポーツを体験します。 サンタさんと親子運動会、サッカー体験教室等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子を対象にしたイベント 事業数 2事業 応募数 278組 参加数 266組	サンタさんと親子運動会など継続して開催し、多くの親子が参加した。元オリンピック選手の為末大氏によるかけっこ教室や、元プロ野球選手によるボールの投げ方教室、Jリーガー参加のサッカーフェスティバルなど多様なイベントを実施した。	◎	2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップや、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。	サンタさんと親子運動会以外にも、スケートボードやインラインスケートといった他では体験する機会が少ない種目の体験教室を実施した。	◎	親子での参加を通じて家族でスポーツに親しむきっかけを提供することができた。引き続き、親子で楽しめる多彩なプログラムを展開していく。
7	野外活動事業	小学生と保護者を対象に、自然観察、キャンプを体験します。 親子野あそびクラブ、ファミリーキャンプ、はじめてのオートキャンプ等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子を対象にした野外活動事業 事業数 16事業 応募数 1911人 参加数 680人	親子キャンプや親子野あそびの体験事業の中で、川辺あそび、牧場体験、磯遊びなど様々なプログラムを実施。また東京オリンピック・パラリンピックに向けたイベントとして実施したカヌー乗艇体験では家族揃っての参加があった。	◎	2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップや、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。	親子キャンプや親子野あそびなど体験事業の中で、新規で農業体験の事業を企画するなど、プログラムの幅を広げた。また東京オリンピック・パラリンピックに向けたイベントとしてカヌー乗艇体験を実施した。	◎	毎回多数の応募があり満足度も高い。今後は新規プログラムも検討していきたい。カヌー体験事業についてはオリンピック・パラリンピック後も継続して実施していく。
8	親子棚田体験事業	友好都市長岡市小国町の協力の下、都会を離れ家族での1泊2日の農業体験を通じ、親子の絆を深めます。また、棚田農業が自然環境に果たす役割を学ぶとともに、農業の楽しさ、大切さを体験します。	児童青少年課	平成14年度より実施 年2回、春(田植え・秋(稲刈り)、家族単位で参加、定員:各回35名	毎年度継続実施。春は田植え体験、山菜取りなど、秋は稲刈り体験、秋野菜収穫などを行い、地元の方とも交流を行った。	◎	家族での農業体験を通じ、親子の絆を深めるとともに、自然環境の役割、農業の楽しさ・大切さを学ぶことができた。今後も体験の機会を提供していく。	毎年度継続実施。春は田植え体験、山菜取りなど、秋は稲刈り体験、秋野菜収穫などを行い、地元の方とも交流を行った。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため春の田植え、秋の稲刈りともに中止した。	◎	家族での農業体験を通じ、親子の絆を深めるとともに、自然環境の役割、農業の楽しさ・大切さを学ぶことができた。新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上での事業実施方法を検討し、今後も体験の機会を提供していく。

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
				実施状況				平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績					
9	親子ミニミニ ジャンボリー	富士高原ファミリーロッジを利用し、1泊2日の野外活動を通じて、就学前の幼児とその親、特に父親との親子ふれあいの機会を提供します。	子ども子育て支援課(旧子ども政策課)	・年2回、夏期実施 ・平成20年度応募者39組116名 当選者30組87名(2回分合計)	平成22年度で事業終了し、平成23年度より児童青少年課の類似事業に統合した。	★ (22)	—	—	—	
10	0123吉祥寺、はらっぱ	0～3歳の子どもの家族がいつでも自由に来館し、楽しく遊び、子育てについて学び合う施設です。元保育士・幼稚園教諭など、経験豊富なスタッフがいて相談などができます。また子育て中の親への様々な支援も行います。	子ども子育て支援課(旧子ども政策課)	・0123吉祥寺年間施設利用者数(子ども)15,619人(平成19年度実績) ・0123はらっぱ年間施設利用者数(子ども)26,741人(平成19年度実績)	0123施設では通常のひろば事業・つどい事業の一環として、毎日開催する「わいわいタイム」での手遊びや体操、月数回実施する「年齢別ひろば」でのリズム遊び、ボール遊び等を継続して実施してきた。年間施設利用者数(子ども)は、0123吉祥寺が18,496人、0123はらっぱが28,882人(平成26年度実績)と、年々増加傾向にある。	◎	子育て家庭が自由に来所でき、楽しく遊べる施設として、利用者アンケートでは非常に高い満足度を得ている。	◎	子育て家庭が自由に来所でき、楽しく遊べる施設として、利用者アンケートでは非常に高い満足度を得ている。令和3年度以降、市の子育て世代包括支援センターの一機関として、健康課や子ども家庭支援センターとの連携を強化し、子ども子育て家庭への支援をより充実させる。また、開館時間の延長と、4・5歳児の受け入れについて、令和3年度中に試行する。	
11	リズムでDANDAN! forキッズ	5歳～8歳を対象にした3分半のリズム体操を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度保育園3園、あそべえ2ヶ所で実施	継続実施中。平成26年度は市内イベント・保育園等22か所にてデモンストレーションを実施。	◎	市内イベント等で広く実施した結果、現在では毎年利用の保育園等も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。コロナ企画及び学生ボランティアによるスタッフ等、更に楽しく啓発に結びつく企画を検討実施予定。	■	平成27年度、ムサンDANKんの認知度向上のため、全国規模のゆるキャラグランプリ2015に参加した。支援センターが市に所属していた時のイベント主体的な事業展開から、主として地域とのつながりを活かした事業展開にシフトし、地域団体等からの依頼に基づき市内イベント等にてデモンストレーションを行った。(実施例:むさしの青空市、あつたか祭り、市内コミセン文化祭)	
12	サマーチャレンジ日本一周家族でメタバ予防講座	親子で生活習慣を見直すきっかけに、運動と食事を意識した1ヶ月を送ります。	健康づくり支援センター	平成20年度は7月21日～8月17日で実施。12組24名参加。	平成22年度まで実施継続	★	—	—	—	
13	親子食育ウォーキング(再掲)	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名(平成20年度参加者延べ61名)	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。	○	事業のノウハウが確立したため、主催事業としての市内コミセンや農園等との協力のもと、健康づくり推進員企画及び出前型のみで継続実施した。	
④誰もが楽しめる機会の充実 (★1:重点施策)										
1	市民スポーツフェスティバル	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日には1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	◎	体育協会、生涯学習振興事業団との共催により毎年10月スポーツの日に総合体育館と陸上競技場において開催している。体育協会加盟団体の協力により気軽に参加できるレクリエーションやスポーツの場を提供した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。種目数約20、参加人数:約1,400～約1,800人。	
2	ファミリースポーツフェア(再掲)	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日(祝・昭和の日)、総合体育館・陸上競技場、自由参加型イベント、400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者数は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。	【再掲】	【再掲】	
3	市民スポーツデー(再掲)	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後(7月、8月、3月除く) 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	【再掲】	【再掲】	
4	スポーツ教室の充実	5～10回程度の初心者対象の「スポーツ教室」や、1回ごとに受付の「ワンデーレッスン」を実施します。 水泳、弓道、アーチェリー、ソシアルダンス、テニス、太極拳、エアロビクス、ヨガ、卓球 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数29,507人 ワンデーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数34,056人	初心者対象の水泳教室等を開催した。またその教室を卒業し自主的にサークル活動できるように支援を行った。予約なしで気軽に参加できるワンデーレッスンは、ピラティス、ボクササイズなど新プログラムも実施し、多くの市民が参加した。また、障害者向けに、ボールエクササイズやノルディックウォーキングなどの教室も実施した。	◎	ジュニア用のワンデーレッスンとして、屋外でのサッカー教室や障害者スポーツ教室のジュニア水泳等も実施した。今後も幅広い年齢層で誰もが参加できるプログラムを検討していく。	◎	体育館に通いづらい方向けに市内の小中学校や武蔵野プレイス、または吉祥寺にあるスポーツショップなどを活用したアウトリーチ事業を実施した。また、令和元年度より障がいのある方が当日申込で気軽に体を動かせる「障がいのためのスポーツ広場」を開始した。ワンデーレッスンでは、勤労者向けに夜間の卓球クラスを追加した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で定員の制限及び感染予防対策を実施した。	

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策											
	事業名										
5	野外活動事業の充実	用具の貸し出しや貸切バスによる移動などで、気軽に参加できる事業を実施します。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また登山スクールや初心者登山教室も実施し安全な登山のできる技術を学ぶ機会を提供した。キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。	◎	体育施設内での展示や、市の主催する防災イベントなどへの参加など、今後も新たなPR方法とPR活動の場を検討していく。	年少児以上を対象にした市民探鳥会や小学生以上を対象にした初心者スケート教室など幅広い世代が参加できる事業を実施した。 レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また、年間通して実施する初心者登山教室では安全に登山ができる技術を学ぶ機会を提供した。 武蔵野市主催イベントに出展してキャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。	◎	市内の障害者向けイベントに出展し、これまで広報できていなかった市民に向けて野外活動をPRすることができた。さらに新たなPR活動について検討していく。 レベル別の登山教室は毎回多数の応募をいただいているが、リピーターが多くなっている傾向があるため、新規参加者を取り込む。	28
6	トレーニング室の運営	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。	平成27年度及び令和2年度に体力測定機器を含めたトレーニング機器のリニューアルを実施した。また、新規利用者の獲得や継続して利用できるよう、ストレッチやエアロビクスなど様々なオリジナルプログラムを実施した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で人数制限及び感染予防対策を実施した。	◎	トレーニング機器等の適切な管理運営とプログラムの提供を行うことができた。 これまで足を運んだことのない市民にとっても魅力のあるトレーニング機器を定期的に入れ替えて導入していることや、気軽に参加できるオリジナルプログラムを実施した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で人数制限及び感染予防対策を実施した。	29
7	(施設管理)スポーツ施設の管理・運営	施設の適切な維持管理をしつつ施設のバリアフリー化に努めます。 視覚障害者用卓球台の設置、更衣室・トイレの整備	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 プラチナカード利用者(障害者等の個人利用) 総合体育館 2,692人 プール 3,254人	料金の減免などもあり、多くの障害者の方の利用があった。特に利用の多いプールには、専用の更衣室に着替え介助のためのベッドを設置。また異性介護用に新たな更衣室も整備した。	◎	東京オリンピック・パラリンピック開催も踏まえ、障害者スポーツを振興していくためにも、更なる整備としてトイレなどの改修を検討していく。	平成29年度陸上競技場チーム更衣室設置の際、障がい者対応の更衣室やトイレを設置、各施設のトイレを和便器から洋便器に更新する工事を実施した。また、総合体育館1階ロビーに導線用の点字ブロックを増設した。	◎	主管課や関係部署と連携し、バリアフリー化を実施することができた。 令和3年度中に卓球室スロープに手摺りの設置をおこなう。また、令和6年度に大改修が予定されている体育施設に、障がい者スポーツも利用しやすいようハード面・ソフト面の整備も提案していく。	30
8	女性向けプログラムの開発	女子中高生、育児期間中の女性を対象とし、美容の観点から女性が関心をもつことができるスポーツのプログラムづくりを進めます。スポーツのあとの食事も含めたプログラムについても検討します。 水中シェイプアップ体操教室、エレガンスストレッチ教室、脂肪燃焼ウォーキング教室、一時保育事業 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に女性を対象とした教室 教室数 6教室 応募数 359人 参加数 211人 一時保育事業 開催数 124日 利用者数 631人	子育て支援教室を総合体育館だけではなく、地域のコミセンやプレイス等で実施。より参加しやすい環境を整備し、多くの方が参加した。また新規に産後ヨガなど乳児と一緒に参加できる教室なども実施した。	◎	需要が多いこの事業は、応募者が多く抽選となっているため今後回数を増やすなど、検討していく。	平日参加しづらい女性をターゲットに土曜日の午後「美姿勢ストレッチ」や「しなやかボディシェイプ」といった女性の関心が高いプログラムを実施した。市内のコミセンで実施する子育て支援教室を通じて、体育館のプログラムを紹介し、ワンデーレッスン等の参加へつなげることができた。	◎	女性が関心を持ちやすいプログラムやキーワードを活用して、多くの女性に運動の機会を提供できた。今後は、単に身体を動かすだけでなく、栄養や美容に関するプログラムと関連づけることで、新規参加者を増やしていく。	31
9	多摩障害者スポーツセンター等主催事業の啓発・普及協力	多摩障害者スポーツセンター利用希望者に、利用方法やセンター主催事業等の紹介を行います	障害者福祉課	問合せに対する窓口・電話での対応、ちらしの配布等	スポーツ等に関心のある方に対して、障害のある方々の健康増進と社会参加を促進するための障害者専用のスポーツ施設である、多摩障害者スポーツセンターを紹介した。また、同施設が実施するイベントについて、ちらしの配布、ポスターの掲示等による紹介を行った。	◎	スポーツに関心のある市民に適切な情報提供ができた。今後、東京オリンピック・パラリンピックの開催等により、一層スポーツを楽しもうという気運の高まりが予測されることから、当課発行の情報紙での掲載など、広報の充実を図る。	多摩障害者スポーツセンターの主催事業を始め、市や武蔵野生涯学習振興事業団が実施する障害者スポーツについて、当課発行の情報紙に掲載するなどにより、スポーツに関心のある市民に適切な情報提供を図った。	◎	市や武蔵野生涯学習振興事業団、多摩障害者スポーツセンターなどの障害者スポーツの事業について、スポーツに関心のある市民に適切な情報提供を行う。	32
(2) ライフステージに応じたスポーツライフの形成											
①子どもが親しめるプログラム等の充実 (★2:重点施策)											
1	土曜学校	学校の授業ではできないスポーツ活動を通して心と身体の健康づくりと子どもどうしのふれあいを図ります。	生涯学習スポーツ課	小学校体育館 年2期制5～10回 定員制	土曜学校としてスポーツ教室を開催している。数年ごとに種目を見直し、様々なスポーツするきっかけづくりの役目は果たしている。	◎	人気のミニバスケットボールやドッチビー、スポーツチャンバラなどのニュースポーツを実施。運動の苦手な子どもでも楽しめるプログラムを用意し、スポーツに親しむ機会を提供することができた。	ミニバスケットボール、卓球、バドミントンなどのオリンピック競技から、パラリンピック競技であるボッチャなど、潜在的・顕在的需要を検討し、種目を見直しながら開催している。	◎	子どもを対象とした事業は青少年の健全育成、心身の発達にとって大切ではあるが、学校授業支援、パラリンピック教育支援、SportsforAllなどのスポーツ事業が増えており、また、他にも小学生向けスポーツ教室など類似事業もあることから、再編・統合・縮小などを検討する必要がある。	33
2	市民スポーツデー(再掲)	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後(7月、8月、3月除く) 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	【再掲】	【再掲】	34	

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
基本施策										
	事業名									
3	学校(部活動)との連携	市内の公・私立中学校の生徒を対象に、各種目の競技に対する正しい知識と基礎的な技術を習得し、あわせて体育に対する関心を深め、健全な心身を鍛え、他校(同じ競技をする生徒)との親睦を図ることで、学校体育の向上を図ることを目的として実施します。また、市立中学校で実施する部活動を指導・支援をするための人材を確保し、活用することで、知識、技能などの提供を得て学校教育における部活動の拡充を図ります。	指導課 生涯学習スポーツ課	年1回、夏から秋にかけて市内中学校総合体育大会を開催 市立中学校で実施する部活動の指導・支援をするための指導員について、学校からの依頼に応じて、市教育委員会にて費用を負担	中学校体育連盟主催の各種目大会への参加や学校間の交流ゲーム、合同練習のほか、私立中学校7校を含む中学校13校による市内中学校総合体育大会及び市内中学校陸上競技大会を実施した。また、部活動の充実を図るため各中学校で外部指導員を使用しており平成26年度は51名の外部指導員が指導を行った。 小学校の授業へスポーツ推進委員の派遣によりニュースポーツの指導を実施した。また市内のラグビーチームによる小学校巡回ラグビー教室を実施した。	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	
4	地域におけるスポーツ団体及び青少年関係団体の活動	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課 生涯学習スポーツ課	(記載なし)	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額の上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度(総経費の半額まで)に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。 市の体育協会に加盟する団体については体育協会を通じ、合宿や遠征試合などに対して借上バスの補助や、指導者講習会等実施している。また様々な競技のジュニア向け教室を開催し、多くの子どもたちが参加している。	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	
5	スポーツ教室	幼児、小学生を対象に、5～10回程度のスポーツ教室を実施します。 幼児対象の体操・器械運動・水泳教室、小学生対象の柔道・剣道・サッカー・テニス・スケートボード・インラインスケート・チアダンス等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子・幼児・小学生対象教室 教室数 93教室 応募数 4,057人 参加数 2,664人	器械体操、HIPHOPダンス、幼児や小学生を対象としたプログラムを多数実施。夏休み、春休みなど短期教室も開催し毎回多くの応募がある。平成27年度より障害者向けの水泳教室も開催した。	◎	◎	◎	◎	
6	野外活動センター	スポーツ振興事業団の中で野外活動の振興を図るための事業の企画・実施・情報提供を行います。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子・小学生対象事業 事業数 22事業 応募数 2,303人 参加数 957人	キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。また野外活動センターではアウトドアの資料を提供するため、自由に閲覧でき、多くの方が利用した。	◎	◎	◎	◎	
7	ランニングフェスティバル	子どもたちが走る楽しさやすばらしさを体験すること、さらには体力の向上を図り、健全な精神を養うことを目的として実施します。	指導課	年1回、平成20年度は、3月に実施。 子どもたちが楽しく走ることができる内容で開催。	小学校5.6年を対象に実施してきたが、類似事業との重複や運営上の課題等により平成25年度より中止した。	○	○	★	—	
8	地域子ども館あそべえ	子どもたちの放課後対策充実施策の一つとして、保護者を含めた地域社会の構成員が一体となって子どもを育てるという考えに基づき、市立小学校全12校で「教室開放」「校庭開放」「図書室開放」を実施します。早朝や放課後・土曜日の子どもたちの居場所づくりや異年齢児童の交流を目的とします。	児童青少年課	全12館年間延人数 教室開放 115,968人 図書室開放 12,890人 校庭開放 308,310人 (平成19年度実績)	毎年度継続実施。小学生が安全かつ健全に放課後等を過ごし、仲間づくりや異年齢交流を行うことができるように、学校施設を利用した地域の居場所・遊びを提供し、小学生の健全育成を図った。各種イベントの実施や小学校の児童数の増加などに伴い、毎年度参加児童数が増加している。	◎	◎	◎	◎	
9	武蔵野野菜たんけん隊	市内の農業生産者宅を訪問し、武蔵野市の地場野菜を見学・収穫します。	子ども子育て支援課(旧子ども政策課)	年2回実施(夏・冬) 夏：応募者132組351名 当選者16組44名 (平成20年度実績) 冬：応募者23組60名 当選者9組24名 (平成19年度実績)	平成23年度で事業終了し、平成24年度以降は事業形態を変更し、食育事業を実施している。	★ (23)	—	—	—	

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
				実施状況				平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績						
10	関前公園トンボ池のこい掘り	へドロの除去や水草を整理します。本来「トンボ池」に生息しない生物を除去し、子どもたちが身近な自然と触れ合える体験学習を行います。	緑のまち推進課	平成19年度 7月28日 子ども86名、大人30名 平成18年度 7月30日 子ども110名、大人60名 平成17年度7月23日 子ども100名、大人50名	平成21年度 7月21日 135名 平成22年度 7月26日 131名 平成23年度 7月24日 104名 平成24年度 7月29日 140名 平成25年度 7月20日 140名 平成26年度 7月28日 140名	◎	身近な水生動物に触れあうことのできる体験学習の場として事業参加者から高い評価を得ている。ここ数年で安定して多くの親子連れの参加がみられる。今後の事業展開としてトンボ池の更なる環境改善と関係部署と連携をしながら、事業を進めていく。	平成27年度 7月18日 137名 平成28年度 7月23日 105名 平成29年度 7月22日 131名 平成30年度 7月21日 151名 令和元年度 7月20日 184名 令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響で中止	◎	身近な水生動物に触れあうことのできる体験学習の場として事業参加者から高い評価を得ている。ここ数年で安定して多くの親子連れの参加がみられる。今後の事業展開としてトンボ池の更なる環境改善と関係部署と連携をしながら、事業を進めていく。	44
11	むさしのジャンボリー	豊かな自然環境の中での共同生活を通し、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施、年1回夏休み中実施、市と青少年問題協議会地区委員会(12地区)で共催、自然体験・野外活動、2泊3日	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど青少年問題協議会地区委員会が企画したプログラムにて毎年度12クールで開催。平成30年度は台風の影響により2クールが中止となった。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力して、新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で、より充実した自然体験活動の機会を提供していく。	45
12	リズムでDANDAN! forキッズ(再掲)	5歳～8歳を対象にした3分半のリズム体操を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度保育園3園、あそべえ2ヶ所実施	継続実施中。平成26年度は市内イベント・保育園等22か所にてデモンストレーションを実施。	◎	市内イベント等で広く実施した結果、現在では毎年利用の保育園等も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。コラボ企画及び学生ボランティアによるスタッフ等、更に楽しく啓発に結びつく企画を検討実施予定。	【再掲】	【再掲】	46	
13	親子食育ウォーキング(再掲)	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名(平成20年度参加者延べ61名)	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。	【再掲】	【再掲】	47	
◎若者から社会人向けのプログラム等の拡充											
1	子育てママのスポーツ教室	日頃子育てに追われスポーツを行う機会の少ない母親を対象に気軽にできるスポーツを楽しみながら、健康増進と参加者相互の交流の場の提供を行います。	生涯学習スポーツ課	年3期 3B体操、フィットネスジャズダンス、ヨガ 20～30名定員 保育者 コミュニティセンターにて実施	ピラティスや脂肪燃焼エクササイズなど、人気のプログラムを実施し、毎年定員を超える応募がある。	◎	スポーツをする機会の少ない子育て世代に、地域でスポーツの場を提供している。平成23年度から指定管理者に委託するに伴い「子育て支援スポーツ教室」に名称変更した。	指定管理者により、毎年実施している。日頃子育てに追われてスポーツを行う機会の少ない母親を対象に、コミセンなどにおいてエアロピラティス、シェイプウォーキング、ヨーガなど誰でも気軽にできるスポーツを楽しむ機会を提供した。託児サービス付き。	◎	子育て中の女性の運動実施率は他の世代と比較して低く、運動・スポーツをするきっかけや心身にリフレッシュできる機会が必要であるため、継続して実施していく。	48
2	市民スポーツフェスティバル(再掲)	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日 600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	【再掲】	【再掲】	49	
3	ファミリースポーツフェア(再掲)	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日(祝・昭和の日) 総合体育館・陸上競技場 自由参加型イベント 400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者数は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。	【再掲】	【再掲】	50	
4	大人の体力測定	トレーニング室に併設の体力測定室を有効に活用します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 利用者数 468人	トレーニング室を利用する初心者等向けに、体力測定をして、個人に合わせた有効なトレーニング方法を指導している。	◎	トレーニング室の新規利用者は多く、今後も有効に活用されるよう整備を継続していく。	平成27年度及び令和2年度に体力測定機器を含めたトレーニング機器のリニューアルを実施した。また、体力測定室にストレッチスペースを設置した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で人数制限及び感染予防対策を実施した。	◎	トレーニングの成果を体力測定機器で確認できるよう併用利用の案内を行った。引き続き、新型コロナウイルス感染症感染予防対策を実施し、体力測定室については有効に活用できるよう検討していく。	51
5	一時保育事業	子育て中の保護者のスポーツ施設利用(教室への参加を含む)を促進します。 未就学児の一時保育等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開催日数 124日 利用者数 631人	教室だけではなく、トレーニングルームやプールの施設利用者についても一時保育を実施している。スポーツ実施率の低い子育て世代に、スポーツをする機会を提供している。	◎	更なる利用者の拡充を図るため、補助金等の活用により本人負担の軽減等を検討していく。	子育て中でも積極的にスポーツに親しんでもらえるよう教室や施設利用者へ一時保育事業を実施した。平日以外にも、イベント「サンタさんと親子運動会」で一時保育を設定するなど利用促進を図った。	◎	教室参加者を中心に保育サービスを実施した。引き続き、保育サービスがあることを広く周知していく。体育館の利用者だけではなく、むしろ体育館の存在を知らない市民へのアプローチを検討していく。	52
6	アウトドアスポーツ事業	はじめてのサーフィンやクライミング、スキューバダイビングなど若者にも人気のあるアウトドアスポーツの事業を進めています。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 6事業 応募者数 346人 参加者数 188人	ワカサギ釣りやスキューバダイビングなど多彩のプログラムを実施した。また、オリンピック競技として人気のあるカーリングなども実施し、東京では体験できない貴重な機会を提供した。	◎	アウトドアスポーツは人気があり、近くで気軽に体験できる場の提供は重要である。今後も様々なプログラムを検討していく。	各種登山事業やアウトドアアカデミー、初心者スケート教室、カーリング体験など実施した。	◎	毎年多様なプログラムを実施してきたが、若者世代の参加が少ない傾向があるため、若者をターゲットにした事業実施について検討していく。	53

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
基本施策										
	事業名									
7	子ども自然体験指導者講習会	ジャンボリーなどで利用する自然の村周辺の動植物や天体、気象等の知識を持った指導者を育成するため、自然体験講習会を開催します。	児童青少年課	年3回講習会実施 平成20年度講習会出席者数 第1回28名、第2回22名 第3回14名	平成23年度から隔年開催に変更して、継続実施している。指導者基本講習、天文・気象講習、実地講習では野外調理、キャンプファイヤー、応急手当の実習を行った。	◎	地域での指導者の育成に資することができた。指導者の不足という課題も生じているため、今後も講習の機会を提供していく。	平成23年度から隔年開催に変更して、継続実施している。指導者基本講習、天文・気象講習、実地講習では野外調理、キャンプファイヤー、応急手当の実習を行った。令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。	◎	地域での指導者の育成に資することができた。指導者の不足という課題も生じているため、新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上での事業実施方法を検討し、今後も体験の機会を提供していく。
8	健康増進(からだほぐし体操教室)	リズム体操、ストレッチ等を組み合わせた運動実技を行います。	健康づくり支援センター	原則火・水・木実施。 平成20年度年122回実施。定員各35名。	名称を「健康体操教室」に変更し、自由来所制で継続実施中。 20歳以上の市民を対象に月・火・水・金曜日に実施。運動に慣れていない方でも無理なく行うことのできる簡単で効果のあるフィットネスプログラム。曜日ごとに強度の異なる運動を実施。	◎	参加者が継続的に多い人気講座であり、運動に慣れていない方のきっかけづくりとして成果を上げていると考えられる。平成26年度までの参加者は圧倒的に高齢者が多かったため、平成27年度より、水曜日を65歳以上の方向けとし、筋力向上プログラム・ストレッチ・脳トレ・転倒予防などの介護予防事業として実施。また、水曜日以外のクラスも、時間・内容をリニューアルし、若い世代に利用してもらえるよう見直しを行った。	平成29年度より、水曜日クラスの対象を65歳以上の運動可能な市民に変更して実施。30年度からは同クラスを自由来所制から事前申込制に変更した。令和2年度からは、感染症拡大防止の観点から全クラスを事前申込制にて実施した。	◎	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、新規の若い年代層の参加が増えた。市民の健康づくり支援において一定の効果上げていることが参加者の声等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。
◎中高年向けのプログラム等の充実										
1	市民スポーツフェスティバル(再掲)	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日 600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日には1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	【再掲】		【再掲】
2	大人の体力測定(再掲)	トレーニング室に併設の体力測定室を有効に活用します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 利用者数 468人	トレーニング室を利用する初心者等向けに、体力測定をして、個人に合わせた有効なトレーニング方法を指導している。	◎	トレーニング室の新規利用者は多く、今後も有効に活用されるよう整備を継続していく。	【再掲】		【再掲】
3	スポーツ教室の充実(再掲)	5～10回程度の初心者対象の「スポーツ教室」や、1回ごとに受付の「ワンダーレッスン」を実施します。 水泳、弓道、アーチェリー、ソーシャルダンス、テニス、太極拳、エアロビクス、ヨガ、卓球 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数29,507人 ワンダーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数34,056人	初心者対象の水泳教室等を開催した。またその教室を卒業し自主的にサークル活動できるように支援を行った。予約なしで気軽に参加できるワンダーレッスンは、ピラティス、ボクササイズなど新プログラムも実施し、多くの市民が参加した。また、障害者向けに、ボールエクササイズやノルディックウォーキングなどの教室も実施した。	◎	ジュニア用のワンダーレッスンとして、屋外でのサッカー教室や障害者スポーツ教室のジュニア水泳等も実施した。今後も幅広い年齢層で誰もが参加できるプログラムを検討していく。	【再掲】		【再掲】
4	野外活動事業の充実(再掲)	用具の貸し出しや貸切バスによる移動などで、気軽に参加できる事業を実施します。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また登山スクールや初心者登山教室も実施し安全な登山のできる技術を学ぶ機会を提供した。キャンプ用品の貸し出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。	◎	体育施設内での展示や、市の主催する防災イベントなどへの参加など、今後も新たなPR方法とPR活動の場を検討していく。	【再掲】		【再掲】
5	トレーニング室の運営(再掲)	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。	【再掲】		【再掲】
6	子ども自然体験指導者講習会(再掲)	ジャンボリーなどで利用する自然の村周辺の動植物や天体、気象等の知識を持った指導者を育成するため、自然体験講習会を開催します。	児童青少年課	年3回講習会実施 平成20年度講習会出席者数 第1回28名、第2回22名 第3回14名	平成23年度から隔年開催に変更して、継続実施している。指導者基本講習、天文・気象講習、実地講習では野外調理、キャンプファイヤー、応急手当の実習を行った。	◎	地域での指導者の育成に資することができた。指導者の不足という課題も生じているため、今後も講習の機会を提供していく。	【再掲】		【再掲】
7	日本一周メタボ予防講座	エクササイズが1日2006の週23エクササイズを目標に、毎日歩数計をつけ、歩数を距離に換算し、地図上で日本一周を目指します。食事と運動を意識することで、毎日の健康づくりを管理栄養士と健康運動指導士が応援します。	健康づくり支援センター	年3期(1期3ヶ月)と夏休み親子限定講座(サマーチャレンジ)を実施 定員30名(平成20年度参加者延べ129名)	平成22年度で終了	★	—	—		—
8	軽やか若ひざ体操講座	ひざ痛改善体操を自宅で毎日実施した記録をもとに、理学療法士が日常生活のアドバイスをいたします。	健康づくり支援センター	○通信講座 年3期、定員30名(平成20年度参加者延べ136名) ○事前説明会をかねた	平成21年度で終了	★	—	—		—

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
				施策の考え方	実施状況			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
					基本施策						平成20年度の状況
	事業名										
9	健康増進 (健康づくり 応援教室) アンチエイジ ングコース	基礎体力づくりや若さを保つための運 動を行います。	健康づくり 支援セン ター	年3期(1期12回) 定員30名	平成20年度で終了	★	—	—	—		
10	健康づくり活 動情報誌	毎年、健康づくり活動情報誌に掲載す る健康づくり活動団体を募集します。 健康づくり活動情報誌は、40歳以上の 市民が自分にあった健康づくり活動を 探す助けとなるよう、市内で行われて いる健康づくり活動を紹介します。	健康づくり 支援セン ター	年1回募集。 平成20年度健康づくり 活動団体数63	平成22年度より市関連施設及び健康づくり支援センター 事業の紹介を追加掲載。活動情報誌に関する市民意見 等のアンケートを折り込み。健康づくりのポイントカード を添付。健康づくりはつらつメンバー全員に送付。平成 26年度健康づくり活動団体数52。	◎	平成27年度より活用対象を40歳以上から20歳以上に変 更。はつらつメンバーへの送付による配布数の増。市内 講座等において健康づくり推進員より活動情報誌活用P R及び掲載活動団体の紹介も行き、活用促進への取組 みを行っている。アンケート結果等により見直しも実施 予定。	平成28年度からA4版サイズ→A5版サイズに、30 年度からは前頁カラー版に仕様変更。健康づくり 応援パートナー店の利用特典(クーポン)を掲載 し、健康づくりはつらつメンバー特典とした。元年度 は健康づくりはつらつメンバー向けに「私の健康づ くり自慢」募集記事を掲載。	★	市民及び健康づくりはつらつメンバーへの健康づく り支援として、アンケート調査でも高い評価を得て きたが、新型コロナウイルス拡大の影響もあり、情 報が不確定な状況下での年1回4月のみの紙ベ ースでの発行は見直し、令和3年度版の発行は見合 わせとした。健康づくり活動情報誌の発行に代え、 令和3年度よりホームページを刷新し、健康づくり 推進員とともにタイムリーかつ効果的に情報発信 を行っていくとともに、ホームページが閲覧できな い方へは紙ベースでの情報提供も対応し、関心の 薄い層への情報発信も工夫して行っていく。	
11	健康増進 (からだほぐ し体操教室) (再掲)	リズム体操、ストレッチ等を組み合わ せた運動実技を行います。	健康づくり 支援セン ター	原則火・水・木実施。 平成20年度年122回実 施。定員各35名。	名称を「健康体操教室」に変更し、自由来所制で継続実 施中。 20歳以上の市民を対象に月・火・水・金曜日に実施。運 動に慣れていない方でも無理なく行うことのできる簡単 で効果のあるフィットネスプログラム。曜日ごとに強度の 異なる運動を実施。	◎	参加者が継続的に多い人気講座であり、運動に慣れて いない方のきっかけづくりとして成果を上げていると考 える。平成26年度までの参加者は圧倒的に高齢者が多 かったため、平成27年度より、水曜日を65歳以上の方 向けとし、筋力向上プログラム・ストレッチ・脳トレ・転倒 予防などの介護予防事業として実施。また、水曜日以外 のクラスも、時間・内容をリニューアルし、若い世代に利 用してもらえるよう見直しを行った。	【再掲】	【再掲】		
12	だんだん活カ アップ体操	自宅でできる簡単筋力アップ体操を多 数紹介します。リズムでだんだんは3分 半の音楽に合わせて動く体操です。健 康づくり支援センターでビデオ・DVD貸 出しを行います。	健康づくり 支援セン ター	武蔵野三鷹ケーブルテ レビで1日2回(午前8 時50分、午後6時)毎 日放送。	継続実施中。月～金曜①午前9時20分～30分 ②午後 12時50分～1時 ホームページで動画配信。むさしのFMで日曜午前8 時25分から放送。 健康づくりはつらつメンバーにDVDプレゼント。市内図 書館にてDVD貸出あり。	◎	J・COM武蔵野三鷹を利用した放映については、費用 対効果等を勘案したうえで今後の継続を検討する。	「だんだん活カアップ体操」を視覚的な方法で、広 く効果的に家庭に普及させるため、市民(ローカ ルエリア)を対象を特化し、チャンネルと番組時間帯 を固定して放映可能な方法として継続実施してき た。武蔵野市における同チャンネル利用可能世帯 割合は約70%である。 現在放映中の画像は、7種類のストレッチと筋トレ の組み合わせ(座位・立位は体操の種類に合わせ てどちらかをそれぞれ実施)を7週サイクルで繰り 返し放映しており、市民が体操を続けていくために 効果的な構成で配信している。 以上を勘案し、今後も継続実施とし、YouTubeなど 他の動画配信についても別途検討することとした。	◎	継続実施予定。	
13	日本一周KK C(健康・健 脚・チャレ ンジャー)	自分で決めた月の1日から3ヶ月間、毎 日の歩数を記録し日本地図を塗ります。 3ヶ月行い、感想を書いて健康づく り支援センターに来所します。	健康づくり 支援セン ター	平成20年12月コースか ら開始。33人参加。	継続実施。平成23年度より、日本縦断KKC(健康健脚 チャレンジャー)に名称変更し、1か月毎に健康運動指 導士によるアドバイス、3カ月目に希望者に食事診断を 実施。更に3カ月の継続実施を勧奨。	◎	アンケート結果によれば、運動が習慣化した等の参加し て様々な健康づくりの効果があった声が非常に多くあ る。平成27年度より参加者獲得のため、インボディ測定 の特典を付加した。日本縦断達成の勲奨と、達成者の フェイスブック等での発表など検討実施していく。	平成29年度より、はつらつメンバー特典とし、歩数 計特典は廃止。はつらつメンバーではない方、 KKCを終了した方を対象として、自身で取り組める 「自分でこつこつKKC」を設定した。	◎	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内 容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支 援において一定の効果を上げていることがアン ケート調査等からも伺える。 今後も必要な見直し等を行い実施していく。	
④高齢者向けのプログラム等の充実											
1	市民スポーツ フェスティバル (再掲)	日頃スポーツをする機会の少ない市民 を対象に簡単なレクリエーションス ポーツを通じてスポーツの習慣化を図 るとともにレクリエーションスポ ーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習ス ポーツ課	年1回10月体育の日 600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多く の参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会 場としたスケートボード大会も同時に開催している。平 成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50 周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により 実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子ども から高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機 会を提供している。	【再掲】	【再掲】		
2	シルバース ポーツ大会	高齢者のスポーツ活動の普及と健康増 進・交流を目的として年1回10月に実 施します。市内を4ブロックに分けて組 対抗で得点を競う運動会形式で行いま す。	高齢者支援 課	平成20年度 参加者数 952名	毎年継続して実施した。	◎	毎年、参加者は700名を超えている。参加者の体力に合 わせた競技内容の見直しを行っていく。	毎年継続して実施していたが、令和2年度は新型 コロナウイルス感染防止のため中止した。	◎	コロナ禍においては実施の可否の判断に苦慮して いるが、フレイル予防に資する本事業の役割は大 きいと感じている。感染症予防に努めながら、競技 内容の見直しを含め工夫をして実施していく。	
3	浴場開放事業 (不老(風 呂)体操)	市内8浴場及びコミュニティセンターで 60分程度の健康体操を行います。公衆 浴場では体操後無料で入浴できます。	高齢者支援 課	平成19年度年間延べ参 加者数14,459名。 平成20年度についても 同等の参加があり、人 気のある事業。	平成21年～平成26年度の間に8カ所あった浴場が廃 業により5カ所に減少。しかし、会場をコミュニティセン ター等に変更し、体操のみ継続して行っている。シル バースポーツ大会では、毎年、不老体操参加者全員で 昼休みのアトラクションとして発表している。	◎	参加者は高齢化しているが、一方で長く通っている方も 多く、介護予防や健康増進に寄与していると考えら れる。会場である浴場が廃業し、体操のみの教室のほうが多 くなっているが、参加者は継続する傾向にあり、今後は会 場確保が課題である。	毎年継続して実施していたが、新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため、令和2年2月26日～9月 15日まで中止した。9月16日以降は自由来所から 登録制に変更して事業を実施。会場定員を削減 し、体操時間も短縮。	◎	コロナ禍においては会場定員を削減せざるを得 ず、参加者の受入に苦慮しているが、フレイル予 防に資する本事業の役割は大きいと感じている。 感染症予防に努めながら参加者が継続して取り組 めるよう、引き続き工夫をして実施していく。	

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策											
事業名											
4	地域健康クラブ	健康維持・増進と社会参加への動機づけ、仲間づくりを目的とし、市内16コミュニティセンター、ぐっどういる境南、くぬぎ園でストレッチ、リズム運動を行います。	高齢者支援課	平成19年度 定員を超える応募 平成20年度 会場を2カ所増設 また体力レベルの高い人向けのコースを3会場に新設。	コミュニティ協議会との共催事業として、地域で気軽に参加できるよう、コミュニティセンター等を会場としている。利用者は毎年1,000人を超えている。	◎	参加者は高齢化しており、会場内でのレベルの差が広がっている。今後は元気クラス、普通クラス、低体力クラスの3クラスに分け対応し、同時に増えていく参加者が安全に体操ができるように体制の見直しが必要である。	毎年継続して実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月27日～8月31日まで中止した。会場定員を削減したため、クラスによっては隔週等での実施としている。	◎	コロナ禍においては会場定員を削減せざるを得ず、参加者の受入に苦慮しているが、フレイル予防に資する本事業の役割は大きいと感じている。感染症予防に努めながら参加者が継続して取り組めるよう、引き続き工夫をして実施していく。	72
5	社会活動センター体操講座	初心者の方を対象とした講座で、健康維持・増進と社会参加への動機づけ、閉じこもり防止などを目的とします。	高齢者支援課	年間講座・短期(6ヶ月)講座・自由入会講座などをレベル別に実施。 概ね定員を上回る応募。	各講座とも概ね定員を上回る応募があり、継続して実施した。	◎	初心者を対象とした事業であり、初めての方を優先し実施した。今後は自主的な活動へつながるよう支援を検討している。	毎年継続して実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月27日～9月24日まで中止した。再開後会場定員を削減し実施している。	◎	コロナ禍においては会場定員を削減せざるを得ず、参加者の受入に苦慮しているが、フレイル予防に資する本事業の役割は大きいと感じている。感染症予防に努めながら参加者が継続して取り組めるよう、引き続き工夫をして実施していく。	73
6	健康増進(健康づくり応援教室)らくらく生活コース	日常生活に必要な筋力の維持・向上のための運動を行います。	健康づくり支援センター	年3期(1期12回)定員30名	平成20年度で終了	★	—	—	—	—	74
7	健康増進(健康づくり応援教室)ころばぬコース	転倒予防に効果的な筋力をアップし、バランス良く歩けるような運動等の紹介をします。	健康づくり支援センター	年3期(1期12回)定員15名	継続実施	◎	毎回定員を上回る応募があり抽選となる。効果測定の結果により、参加者は参加することにより体力レベルを維持していると言える。平成26年度Ⅲ期より、落選者及び講座との併用によるレベルアップのフォローとして総合体育館のトレーニング室に体験からつなぐ取組みを実施中。	継続実施	◎	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を受けていることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。	75
8	筋力がつらっ!若返り教室	高齢者向けの機器(マシン)を利用して筋力、バランス、柔軟性、敏捷性などを向上させるトレーニングを行います。	健康づくり支援センター	年3期(1期24回、週2回)定員25名	平成23年度で終了	★	—	—	—	—	76
9	元気アップ体操	関節の動きを円滑にし、筋力アップを目的に行う3ヶ月のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期(1期12回)定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し「にこにこ運動教室」(定員25名)に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の9割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	左記の通り、平成23年度で終了。	★	—	77
10	いきいき体操	柔軟性向上、筋力アップを目的に行う3ヶ月間のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期(1期22回、週2回)定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し、「健康積立預筋体操教室」(東地区)、「にこにこ運動教室」(西地区)に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の7割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	東地区:平成29年度より、「健康のびのび体操教室」として事業を継続。平成30年度にプロポーザルを予定するも、従前の委託業者及び他のスポーツクラブが参加辞退したため、地区での実施を一時休止とした。西地区:平成29年度より、「いきいき体操教室」として事業を継続。	★	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を受けていることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。	78
11	健康やわら体操	柔道整復師が教える、転倒・ケガ予防を目的とした体操を行います	健康課	年3期(1期10回)定員20名	開催実施延べ回数(H21～H26年度 各30回) 参加実人数 H21→84 H22→72 H23→96 H24→84 H25→93 H26→87	◎	介護予防事業である。アンケートから、参加したことによる満足は得られている。新規参加者が少なくリピーターが多く、参加者の高齢化が見られ、終了後のつなぐ場所が課題となっている。開始時と終了時に効果測定を行っているが、参加者の3割程度の方が運動能力が向上している。H27は介護保険制度の改正があり、関係機関と連携して事業の見直しを行っている。	開催実施延べ回数 (平成27～令和2年度 各30回) 参加実人数 H27→63、H28→71、H29→54、 H30→57、R1→66、R2→90 ※事業概要変更	◎	【令和2年度】 第1期は新型コロナウイルスの影響で第8回まで中止し、家でできる体操の冊子とDVDを配布。終盤の2回は、1回あたりの人数を減らすために、時間を短縮し複数グループに分けて実施。第2期・第3期も時間と回数を減らし、1期を4グループに分けて実施。 (5回、1時間、11名)×4グループ=44名。 1期あたりの定員が増えたが、多くのひろば事業が中止になった影響からか参加者数も増加。また、新規参加者が増加した。 アンケートからは「体力面の効果を感じられた」「ストレス発散になった」「外出が楽しくなった」という意見が多く寄せられた。 今後も必要に応じて見直しを行う。	79

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

【第3章】基本方針				平成27年9月4日付け照会結果				令和3年4月7日付 照会結果				
施策の考え方				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
基本施策						平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績					
事業名												
12	スポーツ教室 の実施	特に、高齢者を対象にしたスポーツ教室を実施します。シルバースポーツランド、60歳からの足腰トレーニング教室、水中いきいき体操教室 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】主に高齢者を対象にしたスポーツ教室年間11教室 週1回×9～10回コース 応募数 236人 参加数 232人 主に高齢者を対象にしたワンダーレッスン 年間 45日開催 参加数 1,329人	予約なしで気軽に参加できるワンダーレッスンは、ヨガや気功、ラジボール卓球など参加しやすいプログラムを用意している。また概ね60歳以上の方向けに体操などいくつかの種目を組み合わせて実施しているシルバースポーツランドを実施し、多くの市民が参加した。	◎	幼児から高齢者まで、今後も幅広い年齢層が参加できるプログラムを検討していく。	1日単位で気軽楽しめるワンダーレッスンと一定期間集中的に学べる会員制教室を実施した。会員制教室では、運動強度が低く、障がいのある方でも楽しめるユニバーサルスポーツ教室(ノルディックウォーキング、水中ウォーキング)を実施した。	◎	高齢者でも参加しやすい運動強度の低い教室を多数展開することができた。体育館は運動習慣のない高齢者にとってはハードルが高い印象を持たれやすいので、健康課や健康づくり支援センターと連携した事業も検討していく。	80	

2 継続するための取組【つなぐ】

(1) 気軽にできるスポーツの普及促進

①一人でもできるスポーツの促進

1	トレーニング 室の運営 (再掲)	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。	【再掲】	【再掲】	81	
2	温水プール、 屋外プールの 運営	年間を通して、開放します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 335日 個人利用者数 158,986人	温水プールは年間を通じ多くの方が利用した。また屋外プールがオープンする夏季期間は、小中学生の利用料金を10円のままとし、毎年多くの方が利用している。	◎	今後も誰もが利用しやすい施設として整備していく。	温水プールは年間を通じて開放し、屋外プールは夏期期間に開放した。令和元年度は、井水ポンプの故障により、夏期の屋外プールは上水を使用して運営した。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で屋内プールは一時閉鎖。その後人数を制限し再開。インターネット申し込みの入れ替え制を実施した。夏期の屋外プールは閉鎖した。	◎	主管課と連携し、適切なプール運営を実施することができた。新型コロナウイルス感染症の終息がみえないことから、入館者数の制限(令和2年度は50名)を継続するために令和3年度より新たなインターネット申し込みを実施する。	82
3	ウォーキング、 公園での ラジオ体操 等	各地域及び団体等により随時開催します。	関係各課	(記載なし)	各地域ごとに、各団体等により自主的に公園で実施している。また夏休みなどは小学生等に向けたラジオ体操も毎年実施している。	◎	地域の自主的な活動を今後支援していく。	市ウォーキング協会により、年間通じてウォーキングのプログラムが提供されている。また、ラジオ体操会連盟など多くの団体が自主的に公園等でラジオ体操を実施している。特に夏休みには小学生等に向けたラジオ体操も実施している。	◎	様々な団体が自主的に活動できており、支援を続けていく。	83
4	さあ始めよう ウォーキング (再掲)	正しい歩き方や靴の履き方のレクチャーと4km強のウォーキングを行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。(7、8月をのぞく毎月実施)	平成21年度より平成26年度まで、年10回程度継続実施	○	参加者数及びアンケート結果等から、これまではウォーキングのきっかけづくりとして一定の成果を上げたと言える。平成27年度より、ウォーキング人口が増えウォーキングへの意識が高まってきた時代の変化に合わせて、仲間づくりやターゲット・テーマを明確にした企画による実施に変更。60代以上を対象とした初級・中級クラス、20～50代の女性を対象とした強度の高い講座等を、複数回のコースにより実施。	【再掲】	【再掲】	84	
5	だんだん活力 アップ体操 キャラバン隊 (再掲)	市内各所(イベント含む)でだんだん活力アップ体操の紹介を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。	平成21年度からは、市内団体等からの依頼により実施。また、高齢者を対象とした各種講座等において実施。	○	市内イベント及び各種講座で広く実施した結果、現在では体操を収録したDVDにより毎朝体操を行っている市内施設も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。	【再掲】	【再掲】	85	
6	日本一周メタ ボ予防講座 (再掲)	エクササイズが1日2006の週23エクササイズを目標に、毎日歩数計をつけ、歩数を距離に換算し、地図上で日本一周を目指します。食事と運動を意識することで、毎日の健康づくりを管理栄養士と健康運動指導士が応援します。	健康づくり支援センター	年3期(1期3ヶ月)と夏休み親子限定講座(サマーチャレンジ)を実施。定員30名(平成20年度参加者延べ129名)	平成22年度で終了	★	—	—	—	86	
7	日本一周KKC (健康・健脚・チャレンジ) (再掲)	自分で決めた月の1日から3ヶ月間、毎日の歩数を記録し日本地図を塗りまします。3ヶ月行い、感想を書いて健康づくり支援センターに来所します。	健康づくり支援センター	平成20年12月コースから開始。33人参加。	継続実施。平成23年度より、日本縦断KKC(健康健脚チャレンジ)に名称変更し、1か月毎に健康運動指導士によるアドバイス、3か月目に希望者に食事診断を実施。更に3カ月の継続実施を奨励。	◎	アンケート結果によれば、運動が習慣化した等の参加して様々な健康づくりの効果があつた声が多くある。平成27年度より参加者獲得のため、インボディ測定の特典を付加した。日本縦断達成の勸奨と、達成者のフェイスブック等での発表など検討実施していく。	平成29年度より、はつらつメンバー特典とし、歩数計特典は廃止。はつらつメンバーではない方、KKCを終了した方を対象として、自身で取り組める「自分でこつこつKKC」を設定した。	◎	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を出していることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要の見直し等を行い実施していく。	87

②自宅でできるスポーツの促進 (★3:重点施策)

1	だんだん活力 アップ体操 (再掲)	自宅でできる簡単筋力アップ体操を多数紹介します。リズムでだんだんは3分半の音楽に合わせて動く体操です。健康づくり支援センターでビデオ・DVD貸出しを行います。	健康づくり支援センター	武蔵野三鷹ケーブルテレビで1日2回(午前8時50分、午後6時)毎日放送。	継続実施中。月～金曜①午前9時20分～30分 ②午後12時50分～1時 ホームページで動画配信。むさしのFMで日曜午前8時25分から放送。 健康づくりはつらつメンバーにDVDプレゼント。市内図書館にてDVD貸出あり。	◎	J:COM武蔵野三鷹を利用した放映については、費用対効果等を勘案したうえで今後の継続を検討する。	【再掲】	【再掲】	88
---	-------------------------	---	-------------	--------------------------------------	--	---	--	------	------	----

(2) ステップアップできる機会の創出

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果				
施策の考え方	実施状況			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況			実績の評価と今後の取組				
基本施策									平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績		
事業名												
①ステップアップするためのプログラム												
1	市民体育大会・市民体育祭	広く市民にスポーツ振興を図り健康増進と体力向上を図ります。	生涯学習スポーツ課	年2期 春・秋 35種目 各期7,000名参加 参加登録制	市民体育大会・体育祭は体育協会加盟の36の競技団体が、様々なプログラムを展開し、小学生から高齢者まで毎年多くの市民が参加している。	◎	バレーボール、サッカーなどから登山、ウォーキング、ライフル射撃、ソーシャルダンスなど多種多様な種目を用意している。27年度は加盟団体が37になり、参加者を増やしている。	◎	日頃の練習の成果を発表する場として、市民スポーツの振興、競技力の向上に寄与している。	89		
2	レベル別プログラムの実施	初心者対象の教室とは別に、経験者向けの教室を実施します。 エアロビクスでの経験者クラスの設定、テニス経験者向けのクリニック、トライアスロン教室、5段階のレベル別の登山 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に経験者を対象にしたスポーツ教室 教室数 6教室 応募数 204人 参加数 184人 主に経験者を対象にしたワンダーレッスン 開催数 91回 参加数 3,695人 主に経験者が対象の野外活動事業 事業数 3事業 応募数 191人 参加数 95人	レベル別の教室を実施することにより、順番にランクをあげていくこともでき、また自分のレベルに合わせた教室を選択することが可能であり、多くの人が参加できる機会を提供している。	◎	今後も誰もが参加しやすく、また継続できるプログラムを検討していく。	○	今後は初心者、初級者向けの教室を中心とした事業展開を予定しているが、状況を見ながら柔軟な対応をしていく。	90		
3	イベント	トレーニングの成果を発揮できる場を提供(競技大会への入門レベル)します。 アクアスロン大会、エアロビクスコンテスト	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 2事業 応募者数 481人 参加者数 429人	毎年アクアスロン大会や、駅伝・マラソン大会を開催し、多くの方が参加している。また障害者が参加できるように環境を整えている。	◎	2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2019年のラグビーワールドカップの日本開催を踏まえ、関連したスポーツイベントを開催していく。	◎	子どもから大人まで、または家族や仲間と一緒に楽しめるイベントを開催することができた。日頃のトレーニングの成果を発揮できる場として引き続き開催していく。	91		
②一人多項目スポーツの推進												
1	市民体育大会・市民体育祭 (再掲)	広く市民にスポーツ振興を図り健康増進と体力向上を図ります。	生涯学習スポーツ課	年2期 春・秋 35種目 各期7,000名参加 参加登録制	市民体育大会・体育祭は体育協会加盟の36の競技団体が、様々なプログラムを展開し、小学生から高齢者まで毎年多くの市民が参加している。	◎	バレーボール、サッカーなどから登山、ウォーキング、ライフル射撃、ソーシャルダンスなど多種多様な種目を用意している。27年度は加盟団体が37になり、参加者を増やしている。	【再掲】	【再掲】	92		
2	施設開放、スポーツ教室の実施	施設開放とあわせて、各曜日、各時間にプログラムを設定し、都合に合わせた参加を可能にします。スポーツ教室と個人利用を組み合わせたの利用や興味にあわせたスポーツ教室と野外活動などの参加が可能となります。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 ○トレーニング室 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人 ○プール 開場日数 335日 個人利用者数 158,986人 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数 29,507人 ○ワンダーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数 34,056人 ○野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	テニスコートやプール、陸上競技場など各種施設が総合体育館に隣接しており、好きな施設を組み合わせ利用することができる。また予約なしで利用できる教室(ワンダーレッスン)など組合せて参加することもできる。野外活動センターが同館内にあり、気軽に立ち寄ることができる。	◎	今後も利用しやすい施設の整備を継続し、各種スポーツや登山・キャンプ等野外活動など多種多様なプログラムを提供していく。	◎	施設利用も、スポーツ教室への参加に関しても、同じ受付窓口で同じ職員が対応することで、要望に応じた案内を提供することができた。また、一定期間参加する会員制教室だけでなく、一日単位で気軽に参加できるワンダーレッスンを様々な種目や時間帯を設定し、提供することができた。	◎	チラシやポスター等を効果的に活用し、的確な表示や案内をすることができた。施設の個人利用や教室についても、複数の種目を提供することで、楽しむ機会を増やすことができた。今後も利用しやすい施設の整備を継続し、各種スポーツや登山・キャンプ等野外活動など多種多様なプログラムを提供していく。	93
3	アウトドアスポーツ事業 (再掲)	はじめてのサーフィンやクライミング、スキューバダイビングなど若者にも人気のあるアウトドアスポーツの事業を進めています。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 6事業 応募者数 346人 参加者数 188人	ワカサギ釣りやスキューバダイビングなど多彩のプログラムを実施した。また、オリンピック競技として人気のたカーリングなども実施し、東京では体験できない貴重な機会を提供した。	◎	アウトドアスポーツは人気があり、近くで気軽に体験できる場の提供は重要である。今後も様々なプログラムを検討していく。	【再掲】	【再掲】	94		

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針				平成27年9月4日付け照会結果				令和3年4月7日付 照会結果				
施策の考え方				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組
基本施策						平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績					
事業名												
4	シーズンス ポーツの促進	継続性をもたせる工夫として、季節に応じた変化をスポーツの種目にも取り入れます。多様な種目を行うことは、身体機能の充実につながると考えられます。同時に、新たな仲間づくりにつながることが期待されます。 (例)夏季の事業：サーフィン、スキンドайビング、キャンプ、屋外プールの開放 等 冬季の事業：スノーキャンプ、スノーボード 等	武蔵野生涯 学習振興事 業団	※「施設開放、スポー ツ教室の実施」と同様	テニスコートやプール、陸上競技場など各種施設が総合体育館に隣接しており、好きな施設を組み合わせることができる。屋外プールの開放やアクアスロン大会の開催など季節に応じたプログラムを提供している。	◎	今後も利用しやすい施設の整備を継続し、多種多様なプログラムを提供していく。	◎	夏季はキャンプやスキンドайビング、冬季はスノーボードや氷上ワカサギ釣り体験など季節を感じられるプログラムを企画実施してきた。	◎	すべての事業で安全管理を徹底して実施しており参加者の満足度も高い。アウトドアスポーツ事業は冬季は種目が充実しているが、夏季は種目が限定してしまっているため、夏季の新規種目を検討していく。	95

3 既存資源の有効活用 【活かす】

(1) 既存の施設や場の活用

①身近な公園などの活用 (★4：重点施策)

1	市民スポーツ デー (再掲)	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習ス ポーツ課	毎月第3日曜日午後 (7月、8月、3月除 く) 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	◎	【再掲】	◎	【再掲】	96
2	特色ある公園 づくり	都市環境改善、生態系保全、レクリエーション、都市景観構成、防災の5つの緑の役割と地域的な特徴を考慮し整備をします。そのうえで、地域ニーズを踏まえ、特色ある公園づくりを進めます。	緑のまち推 進課	公園、緑地の中では遊具のある公園やボール遊びのできる公園、水で遊べる公園等様々な特色を持たせつつ機能の分担を行いながら整備中。	平成21年度 中央通りさくら並木公園 新設公園 平成22年度 境南中央公園 新設公園 平成23年度 桜堤二丁目防災広場公園 新設工事 平成25年度 吉祥寺の杜 宮本小路公園 新設工事 平成25年度 本田東公園 改修工事 平成26年度 吉祥寺東町ふれあい公園 新設工事 平成26年度 すくすく泉公園 新設工事 平成26年度 農業ふれあい公園 拡充工事	◎	ワークショップや意見交換会を行い、地域の意向を踏まえた特色のある公園を整備した。今後新規の公園用地の取得が困難な状況から、既存のストックを有効活用した特色のある公園づくりを進めていく。	◎	平成27年度：ゆりのき公園改修工事、津田公園改修工事 平成28年度：武蔵境ぼっぼ公園新設工事、野田南公園改修工事 平成29年度：グリーンパーク緑地新設(拡充)工事、桜橋公園改修工事 令和元年度：吉祥寺東町農業公園整備工事	◎	アンケート調査や意見交換会など、地域の意向を踏まえた公園を整備し、既存のストックを有効活用しながら特色ある公園づくりを進めていく。	97
3	プレーパーク (境冒険遊び 場)	「子どもが自由な発想で自由に遊べる」環境で、「土、火、水との触れあい」や「様々な年代との交流」を体験し、感性や生きる力を磨きます。また子どもを通じた地域コミュニティの活性化を促します。	児童青少年 課	平成20年7月より実施 開園時間：水～日曜日 (午前10時～午後5時 まで。但し11月～3月 までは午後4時まで) 休業期間① 12月28日 ～1月4日② 8月13日 ～15日	毎年度継続実施。平成22年度からは3月も午後5時までの実施に変更。子どもたちが自由な発想で遊べる場として、通常の運営のほか、各種イベントなどの企画も実施してきた。	◎	開園後来場者も年々増加し、地域のコミュニティの場としても定着している。他の地域でも体験ができるよう出張プレーパークも実施し、今後も拡充を図りながら、地域での活動の支援等も行っていく。	◎	毎年度継続実施。平成28年度からは大野田公園で年51回、令和元年度からは松籟公園で年51回の定期開催を開始した。子どもたちが自由な発想で遊べる場として、通常の運営のほか、各種イベントなどの企画も実施してきた。	◎	市内3地域で事業を定期開催しており地域のコミュニティの場としても定着している。今後も地域住民の参画を大切にしながら、安定した実施を継続していく。	98
4	ウォーキング ルートマップ の活用	既存の市内ウォーキングや散策マップ等を収集し、紹介します。	生涯学習ス ポーツ課		市内スポーツマップを作成し、市内にあるスポーツ施設(公立・民間)の案内やジョギングコースやウォーキングコースを紹介した。	◎	今後も内容を更新し、定期的に発行していく。	◎	スポーツマップを作成し、市内にあるスポーツ施設(公立・民間)の案内やジョギングコースやウォーキングコースを紹介した。文化財マップでは、市内の文化財の解説や、文化財を巡りながら散策のできるおすすめのコースなどが掲載し、隔年で発行した。	◎	紙媒体での発行・配布から、デジタル化への変更を検討する。	99

②スポーツ関連施設の活用

1	市民スポーツ デー (再掲)	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習ス ポーツ課	毎月第3日曜日午後 (7月、8月、3月除 く) 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	◎	【再掲】	◎	【再掲】	100
2	市立小中学校 の施設開放	学習、文化、スポーツ等地域活動の場として市立小中学校施設を市民に開放します。	生涯学習ス ポーツ課	団体登録を行ったうえで、施設使用の申請。	身近にある学校施設を開放することにより、地域で気軽にスポーツをする機会を提供した。団体での使用であり、仲間がいることにより、スポーツの種目も多様で、また文化・学習の場としても開放しており幅広く市民の活動を支援することができた。	◎	市内にある市立の小中学校だけではなく、都立高校の開放も行われている。できるだけ多くの既存施設を活用し、多くの市民が住居の近くで気軽にスポーツができる環境を整えていく。	◎	学校施設開放事業として、身近にある学校施設を開放することにより、地域で気軽にスポーツができる場を提供した。市内にある市立の小中学校だけではなく、都立高校の開放も行われている。	◎	仲間づくり、生きがい、健康維持・増進など多くの幅広く市民の活動を支援することができた。既存施設を活用し、多くの市民が身近な場所で気軽にスポーツができる環境を整えていく。	101
3	コミュニティ センター自主 事業、登録活 動団体の取組	各コミュニティセンターにて様々な行事(ヨガ教室、ナイトハイク、歩こう会などの主催、スポーツ施設の自由利用 等)を実施します。	市民活動推 進課	ヨガ教室、健康体操、ナイトハイク、モーニングハイク、ウォーキング、ダンスパーティー等の主催。スポーツ施設での卓球などの自由利用 等	体育館を併設する3施設では、特に卓球、バドミントン、バスケット等が盛んにおこなわれている。卓球については、多目的室等でも実施できることから、20施設中10施設で楽しむことができる。 ※ナイトハイク、モーニングハイク、ウォーキング事業については、「仲間づくりの促進」に記載。	◎	体育館の利用は子どもから高齢者まで幅広いため、子どものための時間を設けて、利用しやすい工夫している。	◎	各コミュニティセンターにて様々な行事(ヨガ教室、ナイトハイク、歩こう会などの主催事業、スポーツ施設の自由利用 等)を実施。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの事業が未実施となった。	○	参加者からの要望や意見等をもとに、適宜事業内容を見直しながら実施。今後はコロナ禍を踏まえた事業のあり方も含めて検討・実施していく。	102

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策											
事業名											
4	コミュニティセンターを利用した「ひざの話と体操」「はつらつメンバーの集い」	周辺住民が参加しやすいようにコミュニティセンターを使用したひざまたは健康づくりの講座を実施します。	健康づくり支援センター	平成20年度6回実施。	「ひざの話と体操」は平成21年度で終了 「はつらつメンバーの集い」は継続実施。	○	「はつらつメンバーの集い」は、健康づくり出前講座のプログラムや測定等を健康づくり推進員の企画で実施している。参加者のニーズを拾い上げるとともに反映し、新たな参加者の獲得や仲間づくり等の継続支援につなげるため、今後も実施予定。	健康づくり活動を促すきっかけづくりや、はつらつメンバーの声を拾う場として健康づくり推進員企画として、市内各地区で継続実施した(新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和2年度は除く)。平成27年度:8回実施、28～30年度:各6回実施、元年度:7回実施。	○	健康づくりのきっかけづくり事業として随時提供内容等の見直しを行い実施し、市民の健康づくり支援において一定の効果を持っていることがアンケート調査等からも伺える。今後も必要な見直し等を行い実施していく。	103
③地域和学校・民間企業等と連携											
1	スポーツ教室等の開催	民間のスポーツ施設を使ったスポーツ教室等を開催します。	生涯学習スポーツ課	地元企業の体育館でのヨガ教室等の実施。	健康福祉の所管課により、介護予防教室や健康体操など、民間福祉施設等の場所を借りて実施している。	◎	今後は地域のスポーツクラブや大学などとの連携を検討していく。	いきいきサロンやコミュニティセンターへスポーツ推進委員が出向き、ポッチャや体操などを行った。特定非営利活動法人武蔵野スポーツクラブ主催のハンディキャップがある小学生向けのサッカー教室(横河グラウンド)について広報面において支援した。	◎	今後もスポーツ施設や他の施設との連携をしながらスポーツができる環境を整えていく。	104
2	市内スポーツ団体等の紹介	スポーツイベントの際に市内スポーツ団体やアスリートの紹介をします。	生涯学習スポーツ課	自由参加型イベントのプログラムの一つとして、各種競技のデモ演技・紹介等(市内大学運動部、企業内スポーツ団体等)	ファミリースポーツフェアでは、市内のラグビーチームやサッカーチームなどの協力によりミニ教室やイベントなどを開催した。	◎	今後も市内の企業チームや、地域のスポーツクラブ、大学と連携をしていく。	Sports for Allや桜まつりなどのイベント時において市にゆかりある選手やチームをゲストに招き、紹介を行った。	◎	市民が市にゆかりある選手を応援する楽しみや、市への愛着が湧くきっかけとなるよう、市内スポーツ団体・選手を紹介できる機会をつくっていく。	105
3	武蔵野地域自由大学	スポーツに関連した講座を実施します。	生涯学習スポーツ課	(記載なし)	地域自由大学には多くの市民が参加しているため、スポーツを普段行っていない市民にも、座学によるスポーツに親しむ機会を提供した。平成23年度から武蔵野プレイスが運営している。	◎	東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ日本開催に向けて、近隣五大学が工夫をこらした講座を実施することが期待される。	武蔵野地域五大学共同教養講座や武蔵野市寄付講座において、オリンピックやパラリンピックをテーマとした講演や連続講座を開催した。	◎	各大学がテーマを検討する際には、スポーツを切り口としたテーマの一つの選択肢であると考えている。	106
4	民間スポーツクラブとの連携事業	民間のスポーツクラブで充実しているプログラムを、手軽に体験することが可能です。民間スポーツクラブ等へ、スポーツ教室の指導の委託などを行います。(教室終了後、希望者はそのスクールへ紹介が可能)	武蔵野生涯学習振興事業団	エアロビクス、ピラティス、ヨガ等 幼児水泳、親子水泳等	サッカーやエアロビクスなど民間スポーツクラブに教室の運営を委託し実施することにより、充実した内容のプログラムを提供した。	◎	今後も充実したプログラムの実施を継続していく。	JFLの選手や、サッカースクールのプロコーチを講師に招くサッカー教室を実施した。民間のフィットネスクラブでエアロビクスなどを指導する講師を招くことで、民間のフィットネスクラブの情報も合わせて提供することができた。	○	公共施設ならではの手軽さ、気軽さを生かしつつ、民間スポーツクラブへの誘導につなげられるような事業展開を検討していく。	107
5	いきいき体操(再掲)	柔軟性向上、筋力アップを目的に行う3ヶ月間のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期(1期22回、週2回) 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託者を変更し、「健康積立預筋体操教室」(東地区)、「にこにこ運動教室」(西地区)に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の9割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	【再掲】		【再掲】	108
6	元気アップ体操(再掲)	関節の動きを円滑にし、筋力アップを目的に行う3ヶ月のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期(1期12回) 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託者を変更し「健康積立預筋体操教室」に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の7割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	【再掲】		【再掲】	109
7	高齢者健康づくり推進モデル事業	市内民間事業者が行う健康づくり事業を支援し、高齢者の健康増進を図ります。	高齢者支援課	民間のスイミングクラブでの水泳教室・水中運動、カラオケボックスでのカラオケ教室の実施等	平成23年度からスイミングクラブが廃業となり、カラオケ教室の実施のみとなった。また、平成26年度には補助金の見直しやカラオケ教室の実施主体と講師からの申し出により、カラオケ教室をやめることになり事業廃止となった。	★	高齢者の健康増進のきっかけづくりとして始められた事業であるが、社会活動センターや健康課での事業など、健康増進、介護予防等の事業は他でも実施されているため、事業を見直し廃止とした。	—		—	110
(2) 人的資源の活用											
①教えることから始めるスポーツの促進											
1	スポーツ指導員の活用ボランティア制度	指導者としてスポーツをはじめのきっかけづくりの創出をします。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	市の体育協会では競技団体ごとに企画する指導者講習会を毎年実施した。	◎	体育協会スポーツ指導員だけではなく、スポーツ推進委員も含めその活用を今後も検討していく。	引き続き、武蔵野市体育協会において指導養成講習会や指導者実技研修会を毎年実施した。	◎	指導者や指導者を希望する者に対して講習会等を実施でき、指導者の養成と資質向上につながった。	111
②地域におけるスポーツの担い手づくりの充実 (★5:重点施策)											
1	スポーツ指導員の活用ボランティア制度(再掲)	指導者としてスポーツをはじめのきっかけづくりの創出をします。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	市の体育協会では競技団体ごとに企画する指導者講習会を毎年実施した。	◎	体育協会スポーツ指導員だけではなく、スポーツ推進委員も含めその活用を今後も検討していく。	【再掲】		【再掲】	112

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策											
	事業名										
2	スポーツ推進 委員(旧名 称:体育指導 委員協議会)	スポーツ推進委員(旧名称:体育指導委員):『スポーツ振興法』で規定されており、当該市町村におけるスポーツ振興のため、住民に対し、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行います。地域からの要請により地域のスポーツコーディネーターとして活動します。	生涯学習スポーツ課	土曜学校スポーツ教室(毎週土曜日)ファミリースポーツフェア(年1回イベント)その他各地域より要請されたスポーツ行事の運営等。各12小学校区域に2名配置、計24名。	平成23年度にスポーツ基本法が制定され、体育指導員からスポーツ推進委員へと名称が変更となり、その役割も強化された。小学校区ごとに配置され、地域の要請でスポーツ大会の審判や、スポーツの指導を行った。	◎	ラグビーワールドカップ日本開催や東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者スポーツの理解促進や啓発にスポーツ推進委員の関わりが期待されている。	市民のスポーツ推進や障害者スポーツの普及のため、地域の交流会、PTA行事、クラス会、福祉施設のレクリエーションなどに対して、スポーツ推進委員が企画・運営・支援・スポーツ指導などを行った。年に1度ファミリースポーツフェアを企画・開催しているほか、Sports for All、ロードレース(駅伝・マラソン大会)、サンタさんと親子運動会など市・事業団主催事業への協力も行っている。障害者スポーツ指導員(初級・中級)の資格取得や、ボッチャサポーター講習会の受講など、障害者スポーツの普及も目指している。	◎	障害のあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで、多くの方々のスポーツ・レクリエーション活動を支えてきた。今後も、スポーツのきっかけづくりや障害者スポーツの普及・啓発のためのキーパーソンとして活躍できるよう取り組んでいく。	113
3	地域における スポーツ団体 及び青少年関 係団体の活動	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課	(記載なし)	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度(総経費の半額まで)に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。	◎	青少年関係団体の育成及び援助に資することができた。今後も育成・支援を継続していく。	【再掲】	【再掲】	114	
			生涯学習スポーツ課	(記載なし)	学校開放などにより、多くの団体が地域で活動し、保護者を含む多くの方が青少年の活動に参加し指導している。	◎	今後も地域で活動できるように、環境を整備していく。	◎	スポーツ団体が活動を継続できるように、環境を整備していく。	115	
4	野外活動サ ポートスタッ フ	キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツなどに興味・理解がある方を対象にサポートスタッフとして登録を行う制度。野外活動センター主催事業や市の開催するキャンプ事業、市立小中学校のセカンドスクール等の運営・補助業務を行います。	武蔵野生涯 学習振興事 業団	【平成19年度】登録者数 37名講習会 7回応募者数 85人参加者数 85人	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成している。	◎	アウトドアは人気があり、様々な活動を支援するため今後もサポートスタッフの育成事業を継続していく。	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成した。	◎	毎年各種事業運営に協力してもらっているが、登録スタッフの平均年齢が上がってきているため、積極的に若者向けの広報を行ってきたい。	116
5	専門職の人材 バンク	健康づくりに関する専門的な知識を持ち、市民の要望に応じて地域に出向いて様々な形で健康講座を実施する講師を登録します。	健康づくり 支援セン ター	(記載なし)	健康づくりプログラムの作成実施等により、健康づくりの専門的な支援を継続実施。平成26年度の登録数74人。平成27年度より、市内団体・グループだけでなく、市内の企業等に対しても講座等への健康づくり人材バンクの紹介を開始。(有償)	◎	健康づくり支援センターの健康づくりの専門的な支援を支えている登録制度である。平成27年度より地域と連携した健康づくり事業において、継続支援や仲間づくりにおいても講師として可能な協力を開始。	健康づくりの正しい知識を伝え、効果的な啓発を推進するために、出前講座など各種事業の講師として、継続して活用・実施した。健康運動指導士や管理栄養士など、令和2年度末現在の登録数62名。	◎	健康づくり支援センターの健康づくりの専門的な支援を支えている登録制度である。今後も更なる人材確保と活用を進めて継続していく。	117
6	(仮称)ス ポーツ人材登 録事業	地域でスポーツに関する指導・サポートを行う人やスポーツに関するイベントの企画・運営を行う人などを広く登録し、ネットワーク化を図ることなどを通じて、地域でのスポーツ振興に向けた人材の育成を図ります。	生涯学習ス ポーツ課		体育協会を通じた指導者育成や審判養成、またスポーツ推進委員が研修会等で得た技術をスポーツデー等で活かすなど地域のスポーツ振興につとめた。	○	学校のクラブ活動との連携等について引き続き検討する。	体育協会による指導者養成講習会や指導者実技研修会、少年野球連盟による審判講習会、スポーツ推進委員実技研修会等を開催し、資質の向上を図った。企画調整課オリンピック・パラリンピック担当により平成30年7月にスポーツボランティアHANDS(登録制)が発足し、市のスポーツイベントや障害者スポーツを支えた。	◎		118
③スポーツ功労者の表彰制度の創設											
1	(仮称)むさ しの市民ス ポーツ功労 賞の創設	地域の団体が草の根的な活動等を継続している方を表彰し、地域のスポーツ振興を図ります。	生涯学習ス ポーツ課		体育協会では地域で活動するスポーツ団体や大会等で優秀な成績をおさめた方の表彰を実施した。	○	今後も実施を継続する。	体育協会において表彰制度があり、例年表彰を行っている(加盟会員表彰、加盟団体表彰、優秀選手等表彰、一般表彰)。その他、東京都スポーツ功労賞、叙勲及び褒章など様々な主体により表彰制度がある。	◎	本市の制度ではないが、近年は、少年野球連盟と体育協会副会長が東京都スポーツ功労賞を受賞、生涯学習振興事業団が「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰(奨励者表彰)を受賞、スポーツ推進委員複数名が東京都スポーツ推進(体育指導)委員功労者表彰、スポーツ推進委員協議会としてスポーツ推進委員優良団体表彰を受賞している。多くの表彰制度があるため、本市独自の表彰制度の必要性や選考基準については研究の余地がある。	119
(3) 現行プログラムを活かした工夫											
①スポーツ振興の視点からの把握と整理											
1	庁内ワーキ ングチーム での検討	関係各課及び関連団体との連携を強化し、事業の効率的かつ円滑な運営を図ります。	生涯学習ス ポーツ課	体育協会スポーツ指導員	健康づくり支援センターと連携し、総合体育館で実施しているスポーツプログラムの内容を精査し事業を実施した。	◎	今後も関係課等と連携し、事業を実施していく。	生涯学習振興事業団、健康づくり事業団と会議の開催や情報の共有を行い、双方の事業の連携を図った。	◎	今後も関係課等と連携し、事業を実施していく。	120

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果		
施策の考え方	平成20年度の状況			平成21年度～26年度の実績	平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)			進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策										
事業名										
◎様々な分野を組み合わせた機会等の充実 (★6:重点施策)										
1	文化財ウォーキング	市内の文化財を巡るウォーキングを実施します。	生涯学習スポーツ課	(記載なし)	毎年文化財とその散策コースを紹介したマップを発行し、配布している。	◎	多くの方に利用してもらうため、今後も発行を継続する。	市内の文化財の解説や、文化財を巡りながら散策のできるおすすめのコースなどが掲載されているマップを隔年で発行した。	◎	紙媒体による発行をやめウェブ公開とする。また、歴史館の文化財システムでの閲覧について検討する。
2	親子食育ウォーキング(再掲)	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名(平成20年度参加者延べ61名)	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。	【再掲】		【再掲】
4 ライフスタイルの構築 【育む】										
(1) スポーツを通じた健やかな成長										
① スポーツのもつ魅力の発見 (★7:重点施策)										
1	スポーツのもつ様々な魅力を体験するイベントへの参加等	スポーツを多角的な角度から楽しめるよう、様々なスポーツイベントに参加する機会を創出します。 (例) スポーツ選手と語り合うイベント、記者やライター視点から語ってもらうイベント、スポーツ振興についてのシンポジウム等	生涯学習スポーツ課		体操のお兄さんである佐藤弘道氏による親子体操イベントでは、体操指導のみならず、親子のふれあい、コミュニケーションが子どもの将来の体力等に寄与するなど、メッセージ性のあるイベントを開催した。	◎	今後も魅力あるプログラムの実施を検討していく。	東京2020等大会を契機としたSportsforAllイベントでは、スポーツ体験イベントの他、写真展、シンポジウムなどを行い、スポーツの多様な面を活用し、魅力を引き出した。ラグビーワールドカップ2019に向けたSportsforAll吉祥寺×ラグビーでは、駅前通りを封鎖しスポーツイベントを開催し、パブリックビューイングでは大型ビジョンを陸上競技場に設置し、非日常感、感動の共有を演出した。	◎	スポーツが持つ様々な魅力をいろいろな手法で提供できるよう、今後も創意工夫を凝らしていく。
② スポーツを通じた社会性の形成										
1	地域におけるスポーツ団体及び青少年関係団体の活動(再掲)	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課 生涯学習スポーツ課	(記載なし)	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度(総経費の半額まで)に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。	◎	青少年関係団体の育成及び援助に資することができた。今後も育成・支援を継続していく。	【再掲】		【再掲】
2	中学生高校生リーダー講習会	中学生・高校生が地域活動の担い手として活躍できる力(知識・意識・ノウハウ)を身に付けられるように、公共施設や地域社会の組織を利用して、野外活動・保育・植林・イベントボランティアなど様々な講習会や体験事業を行います。	児童青少年課	平成20年度 新規講習会参加登録者数 83名 講習会年6回開催	毎年度継続実施。リーダーの心得講座、火付け・野外調理・テント張り等のキャンプ講習、救急法講習のほか、保育体験ボランティア、イベントボランティアなどを行った。また、平成25年度からは中高生リーダー自身が楽しみながら野外活動のスキルをさらに向上する「次世代担い手育成キャンプ」を開始した。	◎	講習、ボランティア参加等を通じて、青少年の健全育成、将来地域の担い手となるリーダーの育成に資することができた。今後もリーダー育成の取組みを進めていく。	毎年度継続実施。令和2年度より事業名を「中学生・高校生リーダー養成講座」に変更。講習会を実施後、むさしのジャンボリーのサブリーダーや保育体験、各イベントへのボランティア参加など(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部内容を中止・変更)を行った。また、楽しみながら野外活動のスキルをさらに向上する「次世代担い手育成キャンプ」は平成29年度は台風の影響、平成30年度は最少催行人数に至らず、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、それぞれ中止した。	◎	講習会の実施、ボランティア参加などを通じて、青少年の健全育成、将来地域の担い手の育成に資することができた。新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上での事業実施方法を検討し、今後も次世代の地域活動の担い手の育成を継続する。
3	むさしのジャンボリー(再掲)	豊かな自然環境の中での共同生活を通して、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施 年1回夏休み中実施 市と青少年問題協議会地区委員会(12地区)で共催 自然体験・野外活動 2泊3日 参加人数については60頁を参照。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	【再掲】		【再掲】
4	野外活動サポートスタッフ(再掲)	キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツなどに興味・理解がある方を対象にサポートスタッフとして登録を行う制度。野外活動センター主催事業や市の開催するキャンプ事業、市立小中学校のセカンドスクール等の運営・補助業務を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 登録者数 37名 講習会 7回 応募者数 85人 参加者数 85人	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成している。	◎	アウトドアは人気があり、様々な活動を支援するため今後もサポートスタッフの育成事業を継続していく。	【再掲】		【再掲】

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方	平成20年度の状況			平成21年度～26年度の実績	平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)			進捗 状況	実績の評価と今後の取組		
基本施策 事業名											
◎仲間づくりの促進											
1	子育てママの スポーツ教室 (再掲)	日頃子育てに追われスポーツを行う機会が少ない母親を対象に気軽にできるスポーツを楽しみながら、健康増進と参加者相互の交流の場の提供を行います。	生涯学習スポーツ課	年3期 3B体操、フィットネス ジャズダンス、ヨガ 20～30名定員 保育者 コミュニティセンターにて実施	ピラティスや脂肪燃焼エクササイズなど、人気のプログラムを実施し、毎年定員を超える応募がある。	◎	スポーツをする機会の少ない子育て世代に、地域でスポーツの場を提供している。平成23年度から指定管理者に委託するに伴い「子育て支援スポーツ教室」に名称変更した。	【再掲】	【再掲】	129	
2	各種大会、教室等での交流	各種大会、教室等の啓発を行い、市民のスポーツ活動への参加を促進します。	関係各課 (市民活動推進課回答)	(記載なし)	各コミセンが主催するスポーツ関係事業は次のとおり。本宿(ロコモ体操・年1回)、南町コミセン(わんぱく相撲大会・年2回)吉祥寺西【あるこうかい】(都内名所ウォーキング・年4回)吉祥寺北(バドミントン・年15回)、けやき【風と歩こう】(都内ウォーキング・年12回)、中央【ピンポンの日】(第4土曜・子ども対象)、【らくらくヨーガ】(年1回)、西久保・関前共催【多摩湖往復ナイトハイク】(年1回)、緑町【ウォーキング】(近郊散策・年1回)、関前(スカットボール・年1回)、八幡町【歩こう会】(都内散策・年2回)、西部【太極拳・気功表演会】(年1回)、【ちびっこ運動会】(年1回)、【夏休み卓球教室】(年2回)、境南【スポーツ活動講座】(中国気功・月2回、フォークダンス・月2回)【モーニングハイク・年1回]	◎	コミュニティ協議会が主体となり、地域のニーズに合わせた各種のスポーツイベント等を開催している。スポーツを通じた地域住民の交流が図られている。運営委員の年齢層が高いこともあり、比較的高齢者を対象とした事業が多いことが課題である。またスポーツ関係も含めて主催教室は縮小傾向にあるため、コミセンが主催して実施するためには、誰もが参加しやすい種目等を検討しなければならない。	各コミュニティ協議会が主体となり、各種のスポーツ関係事業が開催され、スポーツを通じた地域住民の交流の場となっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの事業が未実施となった。	○	コロナ禍を踏まえ、感染防止と両立した事業のあり方が課題であり、コミセン間で意見交換をしながら検討・実施していく。	130
3	市内中学校総合体育大会	市内の公・私立中学校の生徒を対象に、各種目の競技に対する正しい知識と基礎的な技術を習得し、あわせて体育に対する関心を深め、健全な心身を鍛え、他校(同じ競技をする生徒)との親睦を図ることで、学校体育の向上を図ることを目的として体育大会を実施します。	指導課	平成19年度(第43回)参加生徒数:3,008名 種目:バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、剣道、サッカー、野球、ソフトボール、ソフトテニス、テニス、水泳、陸上競技	毎年度継続実施。 種目:バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、剣道、サッカー、野球、ソフトボール、ソフトテニス、テニス、水泳、陸上	◎	スポーツを通して市内の公・私立中学校の生徒が交流を深め、他校の生徒と切磋琢磨しながらスポーツを楽しむ機会を子どもたちに与えることができた。今後も更なる充実を図る。	市内中学校総合体育大会では、令和元年度から「水泳」「ソフトボール」が参加人数の減少から大会は開催されなかったが、平成27年度から令和元年度の5年間で延べ13,388名の中学生が参加して実施できた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から市内中学校総合体育大会を中止とした。	◎	新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底した上で、地域の感染拡大状況も踏まえながら、市内中学校総合体育大会を実施していく。	131
(2) スポーツによる地域の活性化											
① スポーツによる地域の魅力づくり											
1	地域スポーツイベント	地域主催のスポーツ関連行事などを促進します。	生涯学習スポーツ課	地域運動会、ナイトハイク、ウォーキング、スポーツ教室、ラジオ体操 等	地域主催で実施した運動会等のスポーツイベントに補助金を支出した。	◎	子ども文化・スポーツ・体験事業基金等の活用も含め今後の取組を検討する。	ラグビー、サッカー、ウォーキングサッカー、バスケットボール、野球、柔道など地域団体が主催する様々なスポーツイベントに対して子ども文化・スポーツ・体験活動支援事業費補助金を交付した。	◎	地域活動が活性化し、子どもたちが多くのスポーツを体験する機会の提供にもつながった。	132
2	総合型地域スポーツクラブの調査・研究	総合型地域スポーツクラブについて、他自治体の事例等を調査し、武蔵野市モデルといえるクラブ像を研究します。	生涯学習スポーツ課		スポーツ推進委員の協力によりスポークラブを立ち上げ、総合型地域スポーツクラブ像を検討した。	◎	今後も継続して調査研究していく。	平成27年度に地域スポーツクラブが立ち上がったが、令和2年度に法人が解散した。	◎	総合型地域スポーツクラブのメリットなどを引き続き調査していく。	133
◎地域とのつながり・一体感の形成 (★8:重点施策)											
1	市民スポーツデー (再掲)	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後(7月、8月、3月除く)学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	【再掲】	【再掲】	134	
2	むさしのジャンボリー (再掲)	豊かな自然環境の中での共同生活を通し、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施 年1回夏休み中実施 市と青少年問題協議会地区委員会(12地区)で共催 自然体験・野外活動 2泊3日 参加人数については60頁を参照。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	【再掲】	【再掲】	135	

①「武蔵野市スポーツ振興計画『施策実施状況』」
【第3章】基本方針

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

◎実施・実施後継続中
○事業の一部を実施・実施後継続中
★完了(実施後継続を伴わないもの)
■検討・研究中
▲未着手

資料 9

【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	平成27年9月4日付け照会結果		進捗 状況	実績の評価と 今後の取組	令和3年4月7日付 照会結果			
施策の考え方				平成20年度の状況	平成21年度～26年度の実績			平成27年度～令和2年度の実績 (2015年度～2020年度)	進捗 状況	実績の評価と今後の取組	
基本施策											
	事業名										
3	地域アスリー トの応援	地域のトップレベルチームについて、 地域による応援の輪を広げるためのP Rに取り組みます。 (例) 地域の学校の部活動やクラブ チームの地区大会等情報提供、選手と の交流 等	生涯学習ス ポーツ課		市の陸上競技場は市内のサッカーチームであるJFL横 河武蔵野のホームグラウンドとなっている。チームを支援 し、子ども達にトップチームの試合を観戦する機会を提 供した。	◎	今後も継続して支援し、あらたな展開を検討する。	JFLに所属している東京武蔵野ユナイテッドFC(旧 名称:東京武蔵野シティFC)と相互協力を締結し、 子ども達にトップチームの試合を観戦する機会を 提供した。	◎	今後も双方協力をし、地元チームを応援する喜び や観戦する楽しさを提供していく。	136
◎安全・安心で元気な地域づくり											
1	浴場開放事業 (不老(風 呂)体操 (再掲)	市内8浴場及びコミュニティセンターで 60分程度の健康体操を行います。公衆 浴場では体操後無料で入浴できます。	高齢者支援 課	平成19年度年間延べ参 加者数14,459名。 平成20年度についても 同等の参加があり、人 気のある事業。	平成21年～平成26年度の間に8カ所あった浴場が廃 業により5カ所に減少。しかし、会場をコミュニティセン ター等に変更し、体操のみ継続して行っている。シル バースポーツ大会では、毎年、不老体操参加者全員で 昼休みのアトラクションとして発表している。	◎	参加者は高齢化しているが、一方で長く通っている方も 多く、介護予防や健康増進に寄与していると考え。会 場である浴場が廃業し、体操のみの教室のほうが多く なっているが、参加者は継続する傾向にあり、今後は会 場確保が課題である。	毎年継続して実施していたが、新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため、令和2年2月26日～9月 15日まで中止した。9月16日以降は自由来所から 登録制に変更して事業を実施。会場定員を大幅に 削減し、体操時間も短縮。	◎	コロナ禍においては会場定員を削減せざるを得 ず、参加者の受入に苦慮しているが、フレイル予 防に資する本事業の役割は大きいと感じている。 感染症予防に努めながら参加者が継続して取り組 めるよう、引き続き工夫をして実施していく。	137
2	ラジオ体操 等	各地域及び団体で随時開催していま す。	関係各課	(記載なし)	各地域ごとに、各団体等により自主的に公園で実施して いる。また夏休みなどは小学生等に向けたラジオ体操も 毎年実施している。	◎	地域の自主的な活動を今後も支援していく。	ラジオ体操会連盟など多くの団体が自主的に公園 等でラジオ体操を実施している。特に夏休みには 小学生等に向けたラジオ体操も実施している。	◎	様々な団体が自主的に活動できており、支援を続 けていく。	138
3	高齢者交通安 全グラウンド ゴルフ大会	高齢者の交通事故防止対策の一環とし て、交通安全ルールの遵守と交通安全 テスト、交通安全講話を行い、交通安 全意識の高揚を図る。	交通企画課 (旧交通対 策課)	(記載なし)	主催:武蔵野警察署、武蔵野市、武蔵野交通安全協会 協賛:武蔵野市老人クラブ連合会 老人クラブ単位での参加申込み 参加者数平均:237名	◎	引続き、関係機関と連携し、開催の継続及び参加者の 交通安全意識の高揚増進を図っていく。	平成27年10月31日(土)陸上競技場において実施 し、約200名の高齢者が参加した。グラウンドゴル フ競技、交通安全教室等を行い、交通安全意識の 向上を図ることができた。 平成28年度以降は、中止となっている。	★	事業目的に対し一定の成果は得られたが、交通 安全週間の行事等の充実を図ることで代替が可 能なため、平成28年度以降は中止とした。 今後は、引き続き各種交通安全キャンペーンや 広報媒体等を活用して高齢者の交通事故防止の ための啓発を行うとともに、効果的な交通安全に 関する周知・啓発・実施方法について検討を行う。	139